

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

生活科学科

1 生活学的法律論	2 講義
2 生活学的社会論	2 講義
3 生活学的経済論	2 講義
4 日本国憲法	2 講義
5 運動健康論	2 演習
6 キャリアデザインⅡ	1 講義
7 消費生活論	2 講義
8 社会福祉原論	2 講義
9 社会福祉調査の基礎	2 講義
10 特別支援教育総論	2 講義
11 コミュニケーション技術A	2 講義
12 建築設備	2 講義
13 建築法規Ⅰ	2 講義
14 建築法規Ⅱ	2 講義

27

食物栄養学科

1 生活学的法律論	2 講義
2 生活学的社会論	2 講義
3 生活学的経済論	2 講義
4 日本国憲法	2 講義
5 運動健康論	2 演習
6 キャリアデザインⅡ	1 講義
7 運動生理学	2 講義
8 臨床医学Ⅰ	2 講義
9 臨床医学Ⅱ	2 講義
10 病理学	2 講義
11 栄養教育論Ⅰ	2 講義
12 栄養教育論Ⅱ	2 講義

23

健康栄養学科

1 日本国憲法	2 講義
2 自然科学(物理)	2 講義
3 数理・データサイエンス基礎	2 講義
4 健康スポーツ論	1 講義
5 スポーツ実技	1 実技
6 情報処理Ⅰ	2 演習
7 キャリアデザインⅡ	1 演習
8 社会福祉概論	2 講義
9 食品学Ⅱ	2 講義
10 食品衛生学	2 講義

17

幼児教育学科

1 日本国憲法	2 講義
2 自然科学(物理)	2 講義
3 数理・データサイエンス基礎	2 講義
4 健康スポーツ論	1 講義
5 キャリアデザインⅡ	1 演習
6 情報処理Ⅰ	2 演習
7 保育原理	2 講義
8 教育原理	2 講義
9 子ども家庭福祉	2 講義
10 社会福祉	2 講義

18

地域創成学科

1 情報処理Ⅰ	2 演習
2 キャリアデザインⅡ	1 演習
3 生涯学習概論	2 講義
4 数理・データサイエンス基礎	2 講義
5 図書館概論	2 講義
6 博物館概論	2 講義
7 デザイン論	2 講義
8 情報概論	2 講義
9 情報倫理	2 講義

17

専攻科 文化学専攻

1 日本古代の歴史と文化	4 講義
2 考古学特論	4 講義
3 日本の考古学	4 講義
4 考古学演習	4 演習

16

専攻科 幼児教育学専攻

1 保育課程特論	2 講義
2 臨床心理学	2 講義
3 臨床心理学演習	2 演習
4 特別支援教育の理論と実践	2 講義
5 パソコン実務演習	2 演習

10

授業名	生活学的法律論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎鈴木 康元			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける 〔授業全体の内容の理解〕 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。			
授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける 〔授業全体の内容の理解〕 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること			
履修条件	家政学部 1 年	成績の 評価方法・基準	ペーパー試験と出席の程度を考慮する	
テキスト	その都度指定する			
参考書	その都度指定する			
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

授業名	生活学的社会論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業の概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。			
授業の到達目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の7割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。			
履修条件	家政学部 生活科学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績の 評価方法・基準	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	授業内で採り上げる。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
位置付け・水準	GU1108			
ディプロマポリシーとの関係	他との協調、人間形成			
オフィスタイム	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題ーDVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

授業名	生活学的経済論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業の概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。 なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。			
授業の到達目標	経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の7割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。			
履修条件	家政学部 生活科学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績の 評価方法・基準	①小テスト30点（15点×2回） ②レポート70点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。			
位置付け・水準	GU1109			
ディプロマポリシーとの関係	他との協調、人間形成			
オフィスタイム	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。 近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	地域経済～郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
14	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修し、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	行動経済学とその概要② まとめ	行動経済学の理論について学修する（前回の続き）。これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

授業名	日本国憲法	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎鈴木 康元			
開講期				
授業の概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。			
授業の到達目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
履修条件	幼児教育学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)	
テキスト	憲法【第二版】 弘文堂			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

授業名	運動健康論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 浩明			
開講期				
授業の概要	GU1119 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。			
授業の到達目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 ・人間形成 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる			
履修条件	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績の 評価方法・基準	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。	
テキスト	特になし（必要に応じて資料等を配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：(財)日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）			
位置付け・水準	GU1119			
ディプロマポリシーとの関係	【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 ・人間形成 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる			
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室 佐藤			
アクティブラーニング実施内容	無し			
実務家教員の経歴	久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	バレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	0
11	バレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	バレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	バレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	バレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	実技のまとめ	《まとめとして実技試験を行う》 ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアをする。タオル、水分を準備してくる	30
16	第16回 オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにもどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わるができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。 ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
28	第28回 コンディショニングについて	《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》 ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回 健康的な生活について①	《ライフスタイルについて》 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回 健康的な生活について②	《良い習慣について》 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

授業名	キャリアデザインⅡ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科生 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎森 みい			
開講期				
授業の概要	【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。 インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。 GU1122			
授業の到達目標	【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定	
テキスト	なし			
参考書	なし			
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。			
位置付け・水準	GU1122			
ディプロマポリシーとの関係	学修成果から人材を育成し、社会へと送り出す			
オフィスタイム	12時30分以降(月～金)			
アクティブラーニング実施内容	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。			
実務家教員の経歴	就職部長、キャリアコンサルタント			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要 4/11(Ｖコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する。	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え 4/18(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップを具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
3	企業研究(講演) 5/16(Ｖコマ)	身近な経営者の講演を実施習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
4	事前指導 (ビジネス文書作成) (5/30Ｖコマ)	日誌の書き方、メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマを確認しておく。	30
5	事前指導 (マナー講座) 6/20(Ｖコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/18(Ｖコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

7	インターンシップ実施 1班 8/26～8/30 2班 9/2～9/6	各企業において、夏季休業中（8月下旬～9月上旬）に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
8	インターンシップ報告会 9/13(Ⅰコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/13(Ⅱコマ)	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

授業名	消費生活論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業の概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。			
授業の到達目標	下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。			
履修条件	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 生活科学科 建築デザイン専攻 3年生	成績の 評価方法・基準	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	一般財団法人日本消費者協会「消費者力検定ワークブック2021」			
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。			
位置付け・水準	DS2324			
ディプロマポリシーとの関係	論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関 ～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法 ・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

授業名	社会福祉原論		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎島野 光正				
開講期	前期				
授業の概要	社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を学修する。 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について学ぶ。 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて学ぶ。 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 毎回授業内容に準じたテーマについてレポート（フィードバックレポート）の提出を求めます。 【課題に対するフィードバック方法】フィードバックレポートについてコメントによるフィードバックや意見交換を行う。				
授業の到達目標	【達成目標】 社会福祉の歴史・思想・理論が理解できている 現代社会と福祉制度・福祉政策の動向と課題について理解できている 【単位認定の最低基準】 社会福祉の理念・福祉制度の概要の7割が理解できている。				
履修条件	生活科学科		成績の 評価方法・基準	期末試験 70% 課題 30%	
テキスト	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「社会福祉の原理と政策」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規				
参考書	適宜紹介します				
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会の出来事に関心を持ってください。				
位置付け・水準	DW2151				
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任				
オフィスタイム	火曜日 3・4時限目 創学館4階 N0.3研究室				
アクティブラーニング実施内容	社会福祉の歴史を学ぶ中で、日本で行われていた精神障がい者への私宅監置やハンセン病政策の実際（ニュース映像や当事者の声）を見ながら「個人」と「社会」のありようについて考える。				
実務家教員の経歴	社会福祉士として、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーなどのソーシャルワーク業務の経験を活かし、日本のソーシャルワークの教育及びソーシャルワーク実践が社会福祉学を基盤にしてきたことの基礎的な知識の習得につながる授業を行う。				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 社会福祉の原理	・シラバスの説明 ・社会福祉の原理 ・現在の社会福祉の課題 ・社会福祉の原理がなぜ問われているのか	・分からない語句を調べる ・家族の生活と福祉のかかわりについて考える	30
2	社会福祉の歴史（1）	・社会福祉の歴史を学ぶ視点 ・欧米の社会福祉の歴史的展開	・分からない語句を調べる ・戦後のどのような人たちが生活に困窮していたかを調べる ・Active Learningについて考える	30
3	社会福祉の歴史（2）	・日本の社会福祉の歴史的展開 萌芽期 生成期 発展期 成熟前期 成熟後期 ー戦後改革と高度経済成長の福祉政策 転換期 「日本型福祉社会論」	・分からない語句を調べる ・第二次世界大戦後の福祉政策について整理する ・日本国憲法と福祉の関連について調べる	40
4	社会福祉の思想・哲学・理論（1）	・社会福祉の思想・哲学 ・社会福祉の理論	・分からない語句を調べる ・「パラダイム」の意味について調べる	30
5	社会福祉の思想・哲学・理論（2）	・社会福祉の論点 ・社会福祉の対象とニーズ	・分からない語句を調べる ・Active Learningについて考える	30
6	社会問題と社会構造（1）	・現代における社会問題	・分からない単語を調べる ・「制度の狭間」について調べる	30
7	社会問題と社会構造（2）	・社会問題の構造的背景	・分からない単語を調べる ・少子高齢化の背景と要因について調べる	40

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	福祉政策の基本的な視点	・福祉政策とな何か ・福祉政策において重要な概念・理念	・分からない単語を調べる ・自立と依存についてテキストを読んで考える（自分にとっての自立とは）	50
9	福祉政策におけるニーズと資源（１）	・ニーズ（必要）	・分からない単語を調べる ・ActiveLearningを考える	40
10	福祉政策におけるニーズと資源（２）	・資源（リソース）	・分からない単語を調べる ・自分の地域の社会資源を調べる	40
11	福祉政策の構成要素と過程	・福祉政策の構成要素 ・福祉政策の過程と評価	・分からない単語を調べる ・ActiveLearningを考える	50
12	関連政策の動向と課題	・福祉政策と包括的支援の現状 ・福祉政策と包括的支援の課題	・分からない単語を調べる ・社会福祉基礎構造改革と、その後の法律や制度の変遷についてについてテキストを読み込んでおく	60
13	福祉政策と関連施策	・保健医療政策 ・教育政策 ・住宅政策 ・労働政策 ・災害政策	・分からない単語を調べる ・普段生活の中で新聞やテレビのニュース等で目にする福祉課題とはどんなことだろう	40
14	福祉サービスの供給と利用の過程	・福祉供給部門 ・福祉供給過程	・分からない単語を調べる ・権利擁護とソーシャルワークの関係について考える	50
15	福祉政策の国際比較 まとめ	・福祉政策の国際比較 ・これからの社会福祉 ・ソーシャルワーカーにとっての社会福祉の理論・歴史・政策	・分からない単語を調べる ・テキスト「終章」を読み込んでおく	30

授業名	社会福祉調査の基礎	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期				
授業の概要	社会福祉調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会福祉調査への理解を深めることを目標としたい。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。 【実務経歴】 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】 DS2316			
授業の到達目標	【単位認定の最低基準】 社会福祉調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
履修条件	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 生活科学科 建築デザイン専攻 3年生	成績の 評価方法・基準	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会福祉調査（社会調査）とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会福祉調査（社会調査）とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
14	調査報告とデータの管理 （パソコンを用いての実習）	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

授業名	特別支援教育総論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹 佐藤 久美 藤村 励子			
開講期	前期			
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020 文部科学省『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q＆A』チャイルド本社,2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	DS2217			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 9：00～12：10、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	履修者が「個別の指導計画」を作成・発表した内容についてディスカッションを行う。			
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいのある子どもの子育ての考え方や療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と指導方法①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と指導方法②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	コミュニケーション技術A	配当年度 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎和田 由紀子			
開講期				
授業の概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良き人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや、福祉における基本的な個人の尊重の理念を理解し、専門職に求められる実践的技能の修得を目指します。社会福祉法人に勤務した経験をもとに、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導をします。 授業は、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。 最終授業で、全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準：DU2109 担当教員の実務経験経歴：介護老人福祉施設で、介護福祉士・社会福祉士として勤務、主に福祉関係者を対象とした各種研修会での講師			
授業の到達目標	福祉職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。 ①高齢や障がいのため聴覚や視覚、言語能力が低下していたり、認知症などでうまくコミュニケーションを取れない方を対象にする介護現場で、介護者に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ②支援を必要とする人の理解と、援助的コミュニケーションの基本と技術を学び、支援者としてのコミュニケーション能力を身につける。 ③利用者だけではなく、家族とのコミュニケーション、職員同士のコミュニケーションの重要性と、その専門的考え方を学ぶ。 単位認定の最低基準：上記の内容について7割を理解していること。			
履修条件	生活科学科 社会福祉専攻1年生	成績の 評価方法・基準	期末試験または期末レポート（80％） 受講態度、発表内容、レポート（20％）	
テキスト	介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」			
参考書	「よくある場面から学ぶコミュニケーション技術」中央法規 一瞬でいい関係を築くコミュニケーション大百科 かんき出版 対人援助の現場で使える言葉〈以外〉で使える技術便利帳 翔泳社			
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、評価方法、国家試験について説明します。	この授業で学ぶことについて、概要をつかみ、興味を持った内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	福祉の現場におけるコミュニケーションとは その目的と意義	利用者の尊厳を守る支援者の在り方、支援が必要な人と支援者の関係、支援が必要な人との関係づくりの必要性について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
3	福祉の現場におけるコミュニケーションとは2	共感的理解と意思決定支援 バイステックの7原則について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
4	コミュニケーションの基本技術1	傾聴、受容、共感、対人距離 について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
5	コミュニケーションの基本技術2	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
6	接遇のマナー	言葉使い、敬語、接遇のマナーについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
7	コミュニケーション技術	集団における技術、コミュニケーション障がいについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	特性に応じたコミュニケーション1	身体障がい者の理解とコミュニケーション 視覚障がいの方、聴覚障がいの方とのコミュニケーションについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
9	特性に応じたコミュニケーション2	発達障がいの理解とコミュニケーション方法、精神障がいの理解とコミュニケーション方法について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
10	特性に応じたコミュニケーション3	認知症の理解とコミュニケーション1 認知症を理解し、利用者の状況に応じたコミュニケーションの方法を学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
11	特性に応じたコミュニケーション4	認知症の理解とコミュニケーション2 具体的アプローチ方法として、バリデーション、ユマニチュードについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
12	特性に応じたコミュニケーション5	高次脳機能障がいの理解とコミュニケーションの在り方や支援の工夫について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
13	家族とのコミュニケーション	家族の気持ちの理解、家族関係のとらえ方と介護ストレスの理解、家族の意向の確認と意向表出の支援について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
14	チームにおけるコミュニケーション	連職連連携の必要性、報告、記録、個人情報の保護とチーム内での情報共有についてを学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
15	まとめと補足	補足説明 まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60

授業名	建築設備	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 必修
担当教員名	◎斉藤 守平		
開講期			
授業の概要	[授業概要] 建築士として建物の設計・監理するには意匠デザイン以外にも様々な知識が求められる。 本授業では、その知識の一部[建築設備]の基本知識を習得する。 また、講師の現場体験談などを交えながら建築設備の役割と重要性について理解を深める。 担当教員実務経歴：神奈川県川崎市の建設会社勤務、東京都品川区の建築設計事務所勤務後、帰郷し家業の工務店・設計事務所経営に携わる。現在一級建築士事務所 管理建築士を務める。 課題に対するフィードバックの方法：最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	[授業の目的] 建築士として建築設備図面作成や建築現場を監理する上で必須な「建築設備」の基礎知識を習得すること。		
履修条件	生活科学科建築デザイン専攻 4年生	成績の 評価方法・基準	定期試験及びレポート等により評価します。
テキスト	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
参考書	随時配付		
学生への要望	疑問点は後回しせず、質問してください。		
位置付け・水準	DA2423		
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業全体の大まかな流れ、建築士に求められる設備知識など。	配布資料の復習。	30分～60分
2	建築設備概論	建築設備の役割、種類・構成 建築計画と設備計画の関わり 参考P1-13	授業内容の復習。（特に表・図、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～90分
3	地球環境と建築設備 給排水衛生設備とは	地球環境問題と省エネ、建物の長寿命化と設備の関係 給排水衛生設備の役割・構成 参考P14-23	教科書P20確認問題 授業内容の復習。（特に「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～90分
4	給水設備	水道施設と水道の種類、水道水の水質、給水方式、給水管の管径計算、給水配管材料等 参考P24-43	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～90分
5	給湯設備・ガス設備	湯の性質、給湯量と給湯流量、太陽熱利用給湯設備 参考P44-58	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～91分
6	排水・通気設備	排水の目的、種類と方式、トラップ、排水管材料など 参考P59-71	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～92分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	排水処理設備 衛生器具設備	排水処理設備の目的、汚染度の評価方法、浄化槽、雨水利用・排水再利用設備 参考P72-86	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～93分
8	消火設備	消火設備の基本事項、消火器、屋内消火栓設備、屋外消火栓設備、スプリンクラー設備など 参考P87-96	教科書P96の確認問題 授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～94分
9	空調調和設備とは 空調調和と室内環境 空気の状態	空調調和設備の目的と仕組み、室内環境の指標、空気線図の使い方など 参考P98-109	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～95分
10	空調負荷の考え方	空調負荷の概要と条件、冷暖房負荷等。参考P110-121	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～96分
11	空調調和方式の種類・特徴と設備計画	空調調和方式の種類、熱源方式の種類、空調計画等 参考P122-138	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～97分
12	熱源・熱搬送設備と機器部材 換気・排煙設備	熱源装置、熱搬送設備・室内ユニット等 参考P139-159	教科書P160の確認問題 授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～98分
13	自動制御設備 電気設備とは 受変電・幹線設備 動力設備 自家発電・蓄電池設備	自動制御の方法、自動制御機器 電気設備の役割、構成、関連法規、周波数と電流・電圧・電力、UPSなど 参考P158-170	授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～99分
14	照明・コンセント設備 情報・通信設備 防災設備 搬送設備	照明、コンセント、電話、LAN、TV、防犯、インターホン、自動火災報知設備、避雷針と航空障害灯設備 参考P171-187	教科書P184の確認問題 授業内容の復習。（特に表・図及び公式、「よく読んでおいてください」といった部分についての理解）	60分～90分
15	授業全体のフィードバックと建築業界について	授業全体の重要ポイント総まとめ及び今後建築業界で活躍される皆様へ業界のリアルな実情と心構えについて 参考P1-187	授業内容の総復習。すべての配布資料の見直しなど	90分～120分

授業名	建築法規Ⅰ		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎佐久間 保一			
開講期				
授業の概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所所長を務める。			
授業の到達目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
履修条件	建築デザイン専攻	成績の 評価方法・基準	定期試験	
テキスト	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造 1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	高さ制限 1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

授業名	建築法規Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎佐久間 保一			
開講期				
授業の概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
授業の到達目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。			
履修条件	建築デザイン専攻	成績の 評価方法・基準	定期試験	
テキスト	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」			
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。 最近の建築法令の動き。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。☒ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。 ＊建築物の高さについて復習する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。 併せて、組石造について理解する。☒	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について学ぶ。	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その意味を理解する（（施行令84条～）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築設計について考える（施行令112条他）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。 建築士の責務の重要性を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について復習し、建築基準法との関連を確認する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されていることを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

授業名	運動生理学	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択
担当教員名	◎諏訪 雅貴		
開講期	前期		
授業の概要	“運動”は健康増進の3原則の一つです。生理学、解剖学、生化学、基礎栄養学、応用栄養学などで得た知識を基礎とし、運動に伴う身体の機能や構造の変化（筋骨格系、循環、呼吸、神経、エネルギー代謝）を理解します。 さらに、健康づくりのための運動と食事の関わりである運動栄養学や、スポーツパフォーマンス向上と食事摂取の関わりであるスポーツ栄養学を学びます。 これらの知識と、管理栄養士国家試験との関連づけも行います。 実務経験：企業にて、運動指導、体力づくり活動を活動を行った経験をもとに、運動処方・運動療法について講義します。 実務経歴：企業の医務職運動トレーナーとして勤務 期末試験問題は解答を公開してフィードバックするので、復習に活用してください。		
授業の到達目標	生理学、解剖学、生化学、基礎栄養学の知識の上に、その応用としての運動生理学の知識を積み上げることで、運動が身体に及ぼす影響を理解する。また、栄養士・管理栄養士の立場から、運動やスポーツによる高いQOL(quality of life)の実現に貢献できる。60点以上で単位を認定する。		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	期末試験（100点満点）で評価する。
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 羊土社 および配布資料		
参考書	関連科目の教科書・参考書等		
学生への要望	生理学、解剖学、基礎栄養学、生化学、応用栄養学の知識がベースとなるので、これまでにすでに学習した関連科目とあわせて予習復習をしてください。また、授業前には教科書の範囲に目を通しておくこと。		
位置付け・水準	FN2422		
ディプロマポリシーとの関係	社会貢献、意識と責任感		
オフィスタイム	月曜日 3-5 限 場所 家政学館 3 階 生理学・食品衛生学研究室		
アクティブラーニング実施内容	特になし		
実務家教員の経歴	実務経験：企業にて、運動指導、体力づくり活動を活動を行った経験をもとに、運動処方・運動療法について講義します。 実務経歴：企業の医務職運動トレーナーとして勤務		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 骨格筋の構造と筋収縮	運動生理学やスポーツ栄養学の位置付けを知る。P14-18 骨格筋の構造と骨格筋線維の種類、筋収縮の様式、筋力の決定要因、筋力トレーニングや栄養素の摂取による最大筋力の増加や筋肥大が生じるしくみ。P19-31	授業前に教科書P14-31に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
2	神経系の役割(1)	ニューロンの構造と種類、神経系の分類、運動神経による骨格筋の制御のしくみ。P32-41	授業前に教科書P32-41に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
3	神経系の役割(2) 運動と循環・呼吸(1)	運動時の運動単位と筋線維の動員パターン。P41-45 血液循環、心臓の働き、血圧、毛細血管の働き、およびこれらの運動時の役割について。P46-51	授業前に教科書P41-51に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
4	運動と循環・呼吸(2)	呼吸と肺の働き、肺と組織でのガス交換、およびこれらの運動時の役割について。運動時の酸素摂取量とエネルギー代謝、持続的トレーニングによる骨格筋と心臓の適応。P51-63	授業前に教科書P51-63に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
5	運動とエネルギー源	三大栄養素からのATPの再合成、運動時の糖質と脂質の消費、糖質消費と疲労、運動による糖尿病の改善、エネルギー供給系の理解と運動強度による使い分け。P64-85	授業前に教科書P86-100に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
6	エネルギー消費量	エネルギー消費の分類、身体活動とエネルギー消費、エネルギー消費量の様々な測定法と推定法について。P86-100	授業前に教科書P86-100に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	身体組成・体格	身体組成と脂肪組織の部位や種類、身体組成の測定法、肥満とやせ、スポーツ選手の体格や身体組成。P101-113	授業前に教科書P101-113に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
8	筋肉づくりとたんぱく質	たんぱく質の合成と分解、アミノ酸の分解、食事や運動とたんぱく質代謝の関係、筋肉づくりのためのたんぱく質摂取。P114-130	授業前に教科書P114-130に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
9	骨づくりと栄養素、身体活動	骨の構造と機能、骨代謝とカルシウム代謝、骨量と運動の関係、栄養素の摂取と骨量。P131-P143	授業前に教科書P131-P143に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
10	体温調節と水分補給	熱産生と熱放散、体温調節機構、脱水・熱中症対策と水分補給。P144-153	授業前に教科書P144-153に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
11	加齢に伴う身体機能の変化	加齢に伴う筋骨格系の変化、全身持久力の変化、ロコモティブシンドロームについて。P154-168	授業前に教科書P154-168に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
12	運動と健康(1)	運動処方と運動強度、健常者と有疾患者のための運動、身体活動による疾患予防。P169-177	授業前に教科書P169-177に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
13	運動と健康(2)	身体活動による様々な疾患予防。P177-188	授業前に教科書P177-188に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
14	身体活動と健康	身体活動の言葉の意味、世代別の身体活動、身体活動と健康、身体活動に関する指針や基準。P189-200	授業前に教科書P189-200に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行っておくこと。次週、授業の中で答えあわせを行う。	60
15	スポーツ選手の食事管理	スポーツ選手の時期別（トレーニング期、試合前、試合後、増量・減量）の食事、スポーツ貧血対策、スポーツ選手のビタミンとミネラル摂取、サプリメント、運動と食物アレルギー。P201-215	授業前に教科書P201-215に目を通しておくこと。授業後は、準備したプリントの問題を行うこと。授業の中で答えあわせを行う。	60

授業名	臨床医学Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基本的知識が習得されていること。			
履修条件	家政学部 食物栄養学科 2年 同 編入生 3年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)	
テキスト	疾病の成因・病態・診断・治療―人体の構造と機能および疾病の成り立ち。竹中 優(編集)、第2版、医歯薬出版株式会社			
参考書	特になし			
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教員が強調したポイントはその場で習得すること。 理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。			
位置付け・水準	位置づけ・水準 FN2224			
ディプロマポリシーとの関係	研鑽、食生活への応用。			
オフィスタイム	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	糖尿病とは	糖尿病とは 糖尿病の症状と徴候 糖尿病発症の危険因子 *1型糖尿病と2型糖尿病 * 糖尿病診断基準	糖尿病の分類・症状・検査・診断などについて予習・復習をしましょう。	120
2	糖尿病の合併症・治療・予防	糖尿病急性合併症 糖尿病慢性合併症 *糖尿病細小血管障害 *糖尿病大血管障害 糖尿病の治療 糖尿病の予防	糖尿病の合併症・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。	120
3	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病の定義と診断基準	妊娠糖尿病と糖尿病合併妊娠について予習・復習をしましょう。	120
4	脂質異常症、高尿酸血症、通風	脂質異常症 高尿酸血症 通風	脂質異常症、高尿酸血症について予習・復習をしましょう。	120
5	胃と食道の主な疾患	胃食道逆流症 急性胃炎、慢性胃炎 胃・十二指腸潰瘍 胃がん *ピロリ菌感染の臨床的意義 *胃切除後の合併症	食道と胃の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
6	小腸、大腸の主な疾患	急性腸炎、慢性腸炎 タンパク漏出性胃腸症 炎症性腸疾患(クローン病と潰瘍性大腸炎) 過敏性腸症候群 腸結核 大腸がん 腸閉塞	小腸、大腸の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
7	肝炎	* 各種ウイルス肝炎の臨床特長 * 感染様式と予防 慢性肝炎の自然経過	肝炎について予習・復習をしましょう。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	肝硬変 1	肝硬変とは 背景疾患 ＊肝硬変の各種症状・身体所見	肝硬変について予習・復習をしましょう。	120
9	肝硬変 2、脂肪肝、肝細胞がん	肝硬変の治療と管理 ＊脂肪肝 ＊NASHの臨床的意義 肝細胞がん	肝硬変、脂肪肝、肝細胞がんなどについて予習・復習をしましょう。	120
10	胆道系、膵臓の主な疾患	胆石症、胆のう炎 急性膵炎 慢性膵炎の臨床特長と経過 膵臓がん	胆道系、膵臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
11	循環器疾患総論	循環器総論 血栓防止機構 動脈血栓症 静脈血栓症 ＊エコノミークラス症候群	うっ血、充血、血栓、塞栓、梗塞などについて予習・復習をしましょう。	120
12	高血圧、動脈硬化	高血圧とは ＊高血圧はなぜ危険か 高血圧の診断基準 動脈硬化 動脈硬化の分類 動脈硬化の予防 粥状動脈硬化の臨床的意義	高血圧、動脈硬化などについて予習・復習をしましょう。	120
13	虚血性心疾患	狭心症とは 不安定狭心症 心筋梗塞 ＊急性冠症候群	虚血性心疾患について予習・復習をしましょう。	120
14	心不全	心不全とは 心不全と背景疾患 ＊右心不全と左心不全	心不全について予習・復習をしましょう。	120
15	不整脈	刺激伝達系の解剖と生理 不整脈をきたす機序 不整脈の分類 ＊心臓突然死	不整脈について予習・復習をしましょう。	120

授業名	臨床医学Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基礎的知識が習得されていること。			
履修条件	食物栄養学科 2年 同 編入生 3年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)	
テキスト	疾病の成因・病態・診断・治療一人体の構造と機能および疾病の成り立ち。 竹中 優(編集)、第2版、医歯薬出版株式会社			
参考書	特になし			
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教員が強調したポイントはその場で習得すること。 理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。			
位置付け・水準	FN2225			
ディプロマポリシーとの関係	研鑽、食生活への応用			
オフィスタйм	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	腎臓 その1	尿生成のメカニズムと腎臓の機能 糸球体濾過率(GFR)の臨床的意義 急性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などについて予習・復習をしましょう。	120
2	腎臓 その2	急性腎障害の定義 急性腎障害の分類と病因 急性腎障害の治療	急性腎障害について予習・復習をしましょう。	120
3	腎臓 その3、尿路、前立腺、透析	慢性腎障害の定義・病因・病態 糖尿病性腎障害の病因・病態・病期分類 慢性腎臓病の概念・病期分類 尿路系の主な疾患 前立腺の主な疾患 透析	慢性腎障害、糖尿病性腎障害、慢性腎臓病、透析などについて予習・復習をしましょう。	120
4	ホルモン その1	内分泌疾患の概要 内分泌疾患のフィードバック機構 視床下部一下垂体系 下垂体ホルモンの生産過剰と欠乏	内分泌疾患の概要、視床下部一下垂体系の内分泌疾患について予習・復習をしましょう。	120
5	ホルモン その2	甲状腺機能低下症・亢進症 甲状腺ホルモンの生理作用 バセドウ病 橋本病 副甲状腺機能低下症・亢進症	主な甲状腺疾患、副甲状腺疾患について予習・復習をしましょう。	120
6	ホルモン その3	原発性アルドステロン症 二次性高血圧の臨床的重要性 クッシング症候群 副腎皮質機能低下症	主な副腎疾患について予習・復習をしましょう。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	精神病	摂食障害とは 神経性やせ症(神経性食欲不振症) 過食症 摂食障害の治療と管理	神経性やせ症(神経性食欲不振症)などについて予習・復習をしましょう。	120
8	認知症	認知症とは 認知症と物忘れとの異同 認知症の中核症状と周辺症状 アルツハイマー病 血管性認知症 パーキンソン病 パーキンソン症候群	認知症、パーキンソン病などについて予習・復習をしましょう。	120
9	呼吸器	慢性閉塞性肺疾患(COPD)とは *病理的特徴 *危険因子 *徴候と病態生理 *治療の概要 気管支喘息 気管支炎、肺炎 肺結核	主な呼吸器疾患について予習・復習をしましょう。	120
10	血液 その1	鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 葉酸欠乏と催奇形性 再生不良性貧血 溶血性貧血 黄疸の分類	貧血、黄疸などについて予習・復習をしましょう。	120
11	血液 その2	白血病 悪性リンパ腫 *成人T細胞白血病の成因 *成人T細胞白血病の予防 凝固異常	血液系の悪性腫瘍、凝固異常などについて予習・復習をしましょう。	120
12	運動器	骨粗鬆症 変形性関節症 サルコペニア フレイルティ ロコモティブシンドローム	主な運動器疾患について予習・復習をしましょう。	120
13	感染症	新興感染症 再興感染症 人獣共通感染症 日和見感染症 院内感染症 性感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。	120
14	免疫・アレルギー その1	自然免疫と獲得免疫 液性免疫と細胞性免疫 アレルギーとは アレルギーの4つのタイプ(クームス分類) 食物アレルギー アナフィラキシーとその対処	免疫学総論、アレルギーなどについて予習・復習をしましょう。	120
15	免疫・アレルギーその2	膠原病、膠原病類似疾患 自己免疫疾患 後天性免疫不全症候群(AIDS)	主な膠原病、自己免疫疾患、免疫不全症などについて予習・復習をしましょう。	120

授業名	病理学	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	病理学の総論では、病因、退行性・進行性病変、代謝異常、免疫異常、感染、老化、放射線障害、腫瘍、先天性異常などを学ぶ。各論では、各系統や器官の主要な疾患の病態を学ぶ。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：主要な疾患、特に食事や栄養に関連する病態を概説できること。			
履修条件	食物栄養学科 1年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) 筆記試験 (80%)	
テキスト	シンプル病理学・第8版(笹野公伸、岡田保典、安井弥：南江堂)			
参考書	NEWエッセンシャル病理学・第6版(笹野公伸・澤井高志・長村義之：医歯薬出版株式会社)			
学生への要望	病気の原因と病態について日常的に興味を持つようにすること。 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。			
位置付け・水準	FN2126			
ディプロマポリシーとの関係	研鑽、食生活への応用。			
オフィスタイム	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	疾患、病因	病因とは病気の原因や成立ちをいい、外因と内因とがある。外因には生物・物理・化学的因子、栄養学的因子など、内因には代謝・遺伝子・免疫の異常、年齢などがある。	疾患、病因などについて予習・復習をしましょう。	120
2	細胞障害と細胞増殖	細胞の正常な形態や機能、増殖、細胞死を基本知識として、細胞障害による変性、遺伝子障害による疾病の成因と遺伝子修復について学ぶ。	細胞障害、細胞死、細胞増殖などについて予習・復習をしましょう。	120
3	組織、細胞の修復と再生	組織と細胞の再生とその機序を学び、再生の過剰、化生、治癒の様式、異物処理、器質化などを理解する。	再生、化生、過形成、肥大などについて予習・復習をしましょう。	120
4	循環障害	局所循環障害のうっ血、虚血、血栓、出血、梗塞などを学び、心不全、ショック、浮腫などの全身性循環障害の病態生理を理解する。	循環障害について予習・復習をしましょう。	120
5	炎症	炎症の定義と徴候を学び、その原因や炎症細胞、組織変化、組織修復機構を理解する。	炎症について予習・復習をしましょう。	120
6	感染症	病気の原因となる病原体の種類を学び、代表的な感染症の特徴を知る。病原体の感染形態に対する生体防御反応を学び、感染防御対策を考える。	感染症について予習・復習をしましょう。	120
7	免疫機構の異常	生体防御機構の主役である免疫機構を学び、その異常である免疫疾患を理解する。	主な免疫不全、アレルギー、膠原病などについて予習・復習をしましょう。	120
8	腫瘍	腫瘍の概念と病理形態学的特徴を学び、腫瘍の発生と進展、良性と悪性の鑑別、病理診断、疫学などを学ぶ。	腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
9	遺伝と先天異常	染色体・遺伝子の構造を学び、その異常による発症の原理を理解する。代表的な染色体異常症や遺伝性疾患について学ぶ。	主な染色体異常、遺伝性疾患などについて予習・復習をしましょう。	120
10	代謝異常	代謝異常が主たる病因ではその病態変化を学ぶ。主要な代謝異常症について説明できるようにする。	主な代謝異常について予習・復習をしましょう。	120
11	老化	生命の終末に向けて老化が進む。この老化の特徴とメカニズムを学び、細胞・組織・器官の変化を理解する。	老化について予習・復習をしましょう。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	循環器・造血系・運動器の病理	心臓、血管、骨、筋、骨髄、関節などの主要な病気の病態を学ぶ。	循環器、造血系、運動器などの主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
13	消化器の病理	口腔、消化管、唾液腺、肝臓、胆道系、膵臓などの主要な病気の病態を学ぶ。	消化器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
14	呼吸器・泌尿器・生殖器の病理	気道や肺、腎臓や膀胱、性腺や子宮などの主要な病気の病態を学ぶ。	呼吸器、泌尿器、生殖器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
15	神経系・内分泌系・感覚器の病理	脳、脊髄、神経、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、眼、皮膚等の主要な病気の病態を学ぶ。	神経系、内分泌、感覚器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。	120

授業名	栄養教育論Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎岡部 聡子		
開講期	後期		
授業の概要	栄養教育分野における各理論家が提唱する行動科学理論や、カウンセリングの基本的事項について概説する。前半は、国民健康調査結果を基に、現在の日本国民の食生活傾向について理解し、是正について意見を出し合う。後半は、自己の私生活を見直し、食生活の改善に向けて行動目標を立て、実践を通して栄養教育の在り方について考察する。 医療機関での勤務経験をもとに、栄養マネジメント～栄養カウンセリング(7～12回)までの授業を行う。 課題のフィードバックは課題の添削・返却時にコメントをする。また、共通する点については全体に向けてフィードバックを行う。		
授業の到達目標	①行動科学理論家の提唱する理論を理解し、行動変容技法についてはいくつかを実践する ②食事調査から栄養計算をする方法が理解でき、自己の食事を日本人の食事摂取基準に合わせ、PFCバランスについて理解する ③ペアを組み、協同で栄養指導のデモができるようになる 単位認定の最低基準は、上記到達目標の8割を理解していること。		
履修条件	食物栄養学科2年	成績の 評価方法・基準	筆記試験80％、提出物20％
テキスト	栄養教育論 春木 敏編 医歯薬出版株式会社		
参考書	カロリーガイドブック 食品成分表		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
位置付け・水準	FN2260		
ディプロマポリシーとの関係	研鑽、食生活への応用		
オフィスタイム	水曜日1コマ、5コマ		
アクティブラーニング実施内容	12回、13回		
実務家教員の経歴	看護師・管理栄養士として医療機関に勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	栄養教育の概念	栄養教育論の授業の構成と評価について理解する。健康政策と栄養教育について、栄養教育の概念・意義を理解し、栄養教育の目的に沿った内容を学ぶ	教科書の単元部分を黙読する。	20
2	行動科学理論と栄養教育①	行動科学理論の栄養教育への適用、行動療法に基づく健康支援の方法について学ぶ	行動科学の単元について教科書を黙読する。	20
3	行動科学理論と栄養教育②	行動科学の栄養教育への必要性和食行動形成に影響を及ぼす要因について学ぶ	行動科学の単元について教科書を黙読する。	20
4	国民栄養の変遷と栄養教育①	食生活の変遷と疾病構造の変化、国民栄養の現状、食の消費動向と栄養教育について学ぶ	国民健康栄養調査について全文を読み、大切と思うところを要約する。	30
5	国民栄養の変遷と栄養教育②	国民健康栄養調査について動向を知る	国民健康栄養調査について全文を読み、大切と思うところを要約する。	30
6	食環境づくりと栄養教育	食環境の概念と組織づくり・地域づくりへの展開	教科書の単元を黙読し、身近にある情報が食物・情報へのアクセスか検討する。	20
7	栄養教育マネジメント①	栄養教育マネジメントのフローチャートについて学ぶ	自己の問題点についてアセスメントする。食事記録の実施。	20

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	栄養教育マネジメント②	栄養アセスメント、実態把握について学ぶ	自己の問題点についてアセスメントする。 食事記録からエネルギーの算出。	20
9	栄養教育マネジメント③	栄養価の計算方法について学ぶ	自己の問題点についてアセスメントする。 食事記録からエネルギーの算出。	20
10	栄養教育マネジメント④	肥満者特有の行動特性について学ぶ	教科書の単元を黙読し、内容の理解に努める。	20
11	栄養教育マネジメント⑤	栄養教育の評価における目的、デザイン、種類、方法について学ぶ	教科書の単元を黙読し、内容の理解に努める。	20
12	栄養カウンセリング	カウンセリングの理論と方法、栄養教育への適応、実践について学ぶ	カウンセリングの姿勢について、教科書を読み、理解することと、実践を1回おこなう。	30
13	食行動から捉える栄養教育①	ペアを作り、食事調査から問題点の抽出について話し合う	教科書の単元を黙読し、行動変容技法の活用を考える。	20
14	食行動から捉える栄養教育②	食事摂取行動の問題点、食環境と食行動、家族の変化と食行動、ダイエットについて理解を深める	教科書の単元を黙読し、行動変容技法の活用を考える。	20
15	栄養教育論のまとめ	行動変容パターン、食事指導でのポイントについて復習をおこなう。	テストに向けて、各単元の理解を教科書とノートを用いて復習する。	60

授業名	栄養教育論Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎岡部 聡子			
開講期	前期			
授業の概要	本授業の目的は、栄養教育のための実践基礎知識を学び、食事と栄養、食生活の重要性を理解する。 ライフステージに応じた課題や問題を理解する。 健康維持と増進、障害者の自立支援を目指した栄養食事指導ができる能力を養う。 医療機関での勤務経験をもとに、成人期～カウンセリングの基本(9～13回)までの授業を行う。 課題のフィードバックは課題の添削・返却コメントで対応し、共通する点について全体に向けてフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①食事チェック教材の種類がわかり、活用法と注意点を把握できる ②各ライフステージにおける対象の特性と栄養上の問題点を理解できる ③カウンセリングの基本姿勢を理解できる 単位認定の最低基準は、上記到達目標の8割を理解していること。			
履修条件	食物栄養学科3年	成績の 評価方法・基準	筆記試験80％ 課題提出20％	
テキスト	栄養教育論 春木 敏編 医歯薬出版株式会社			
参考書	特になし			
学生への要望	受け身でなく、積極的な姿勢で授業に望むこと			
位置付け・水準	FN2361			
ディプロマポリシーとの関係	研鑽、食生活への応用、社会貢献、意識と責任感			
オフィスタイム	水曜1コマ、5コマ			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	看護師・管理栄養士として医療機関に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	栄養教育の意義と必要性	栄養教育の概念・意義を理解し、食行動から捉える問題点を考え、行動療法に基づく健康支援について理解する。	教科書の単元部分を読むこと。	20
2	栄養教育のための実践基礎知識(1)	日本人の食事摂取基準(2020年版)の基本的な活用方法と留意点、食品構成、献立作成について学ぶ。	食事摂取基準の基本事項について読むこと。	20
3	栄養教育のための実践基礎知識(2)	わかりやすい食事チェック教材(食事バランスガイド、新食生活指針、運動指針、休養指針)について理解する。	各項目について、記憶するよう反復読み返しをおこなう。予習復習を行う。	20
4	栄養教育のための実践基礎知識(3)	個人の健康づくりのための身体活動基準、休養指針、睡眠指針を理解する。	各項目について、記憶するよう反復読み返しをおこなう。予習復習を行う。	20
5	栄養指導の媒体と視点	栄養指導と学習形態、教材の種類、栄養教育について必要な指導のポイントを学ぶ。	各項目について、記憶するよう反復読み返しをおこなう。予習復習を行う。	20
6	ライフステージ別栄養指導(1)妊娠期・授乳期	妊娠期・授乳期を対象とする栄養と特性を理解し、栄養教育プログラムの作成と評価について学ぶ。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
7	ライフステージ別栄養指導(2)幼児期・学童期	幼児期・児童期を対象とする栄養と特性を理解し、栄養教育プログラムの作成と評価について学ぶ。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
8	ライフステージ別栄養指導(3)思春期	思春期を対象とする栄養と特性を理解し、栄養教育プログラム(肥満・やせ)作成、実施と評価について学ぶ。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
9	ライフステージ別栄養指導(4)成人期	成人期を対象とする栄養と特性を理解し、生活習慣病予防と食事療法の基本方針、地域・職域における栄養教育のためのプログラムの作成、保健指導と評価について学ぶ。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
10	ライフステージ別栄養指導(5)高齢者	高齢者を対象とする栄養と特性を理解し、低栄養と食事療法の栄養教育プログラム作成、実施と評価について学ぶ。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	介護予防と栄養教育	介護保険制度と栄養改善サービス、食事計画、支援、栄養相談、助言等について学ぶ。	配布資料をよく読み、重要と伝えたところを覚えるように取り組むこと。	20
12	障害者と栄養教育	障害者を対象とする栄養と特性を理解し、栄養教育プログラムの作成、実施と評価について学ぶ。	配布資料をよく読み、重要と伝えたところを覚えるように取り組むこと。	20
13	カウンセリングの基本と栄養教育への応用	個人を対象とした栄養教育におけるカウンセリングの意義と特性、マネジメントについて理解する。(ラボールの形成、目標の共有、課題の明確化、クライアント中心の考え方)	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
14	食環境づくり、外食産業と栄養教育	食物のアクセス面での展開、食料自給率の動向、食の安全・安心への取り組み。外食産業の動向等について理解する。	単元を読んで授業に臨む。授業終了後に再度読み返すこと。	20
15	まとめ	各分野における栄養教育の重要性を理解し、さらに世界の栄養問題、慢性疾患予防、小児疾患等について理解する。また、ヘルスリテラシーとナッジ理論の栄養教育への応用について学ぶ。	配布資料をよく読み、重要と伝えたところを覚えるように取り組むこと。	20

授業名	日本国憲法	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎鈴木 康元			
開講期				
授業の概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。			
授業の到達目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
履修条件	幼児教育学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)	
テキスト	憲法【第二版】 弘文堂			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下 の平等の意義	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげ ながら教える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

授業名	自然科学（物理）	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	本講義では物理学における基本的な概念を把握し説明できるようになることを目指す。そのために物理学において最も基本的な分野である力学を学ぶ。 学んだ力学をもとに生物の物理学および音の物理学を学び、他分野における物理学の役割を理解する。 フィードバックとしてリフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却・課題内容の説明等を行う。			
授業の到達目標	本講義では物理学における基礎概念の理解および物理学の役割の理解のために、(1)物理学の考え方を理解し基本的な物理法則を説明できること、(2)エネルギーなどの諸概念を理解し現象と結び付けられること、を目標とする。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること			
履修条件	とくに定めない。	成績の 評価方法・基準	課題(理解度の確認)2回・リフレクションペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、リフレクションペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。	
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考書	とくに定めない。			
学生への要望	日常の現象に対して、なぜその現象が起こったのか自ら考えてみること。			
位置付け・水準	GC1107			
ディプロマポリシーとの関係	「他との協調」「人間形成」			
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数値的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。☑			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の目標を示し、内容を概説する。また評価方法や教科書などについても述べる。また本授業で要求する基礎能力について説明する。本時では、本講義で必要となる基礎定数・文字式の扱いについて学習する。	本時の復習として、文字式の基本的な扱いを確認すること。	20
2	指数・単位・次元	指数を用いた表現方法について学習する。一般に物理量は単位を有することを知り、具体的な単位に m, cm, kg, g, sec などがあること、また速さなどの単位は、これらの単位の組み合わせとなっていることを理解する。この一般化として、日常の単位は長さ・質量・時間の三つの量の組み合わせで作られることを理解し、次元の概念を学ぶ。	本時の復習として、指数法則・負の整数乗・分数乗について確認すること。また次元解析とはどのような解析方法であるか具体例で確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
3	力と運動：ニュートンの3法則	運動の法則について学ぶ。速度と運動状態の關係に着目し、速度の変化には力が関わっていること、質量とは速度変化のしにくさであることを学ぶ。また物体間に働く力の關係として作用と反作用の關係を学び、日常現象から天体現象まで、同一の法則に支配されていることを認識する。	本時の復習として、ニュートンの三法則の内容を確認し、整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
4	保存則	保存則に着目すると現象の理解が容易となる。保存則と關係するエネルギー・運動量・角運動量を導入し、相互作用の前後でこれらの物理量が保存されることを学ぶ。さらにエネルギー問題・交通事故と速度の關係・自転車の運動などを保存則の観点から理解する。	本時の復習として、エネルギー等の物理量の定義とその意味、保存則の種類を確認すること。また日常の現象と保存則の關係を整理すること。	90
5	保存則とエネルギー伝達	空間の次元とエネルギーの伝わり方について実験を通して学習する。音は波であって、音の大きさは波の振幅と關係することを学ぶ。音の広がり方に着目し、エネルギー保存の観点から音の弱くなり方について理解する。また音との類推から放射線の強度についても放射線源からの距離により放射線強度が弱まることを理解する。（平面に分布している場合はどこでも同じになることについても触れる）	本時の予習として、エネルギー保存則の内容を確認しておくこと。本時の復習として、エネルギー保存則と空間の關係を整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	圧力	圧力の意味を理解し、日常での扱われ方について学ぶ。力は運動を定める基本的な要素であるが、日常では多数の粒子が関与するため力で扱うと不便ことがある。実際の現象では平均化された力である圧力を用いる方が適切な場合がある。ここでは圧力の計算方法を理解し、大気圧の大きさ、大気圧の生み出す現象(風)、圧力差の利用(サイフォン)などにより圧力と現象との関係を説明できるように学ぶ。より理解を深めるために、授業では体重による圧力に関する簡易実験を行い、圧力と力の違いの理解をはかる。	本時の復習として、圧力の定義を確認すること。また圧力の単位の関係を整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
7	生物の物理学：生物の大きさ	あらゆる現象は物理法則に支配されており生物も例外ではない。これまでに学習した空間の次元やエネルギーの観点から、暑さの感じ方の違いや巨大な生物の存在の有無を理解できることを学ぶ。具体的に人間などの大きさや体重などを参考にし、空想上の生物が存在しうかについて次元解析を用いて考察する。	本時の予習として、次元解析の内容を確認しておくこと。本時の復習として、自分自身の身体において高さ(身長)・横幅・前後の厚みを2倍にした場合の体重を計算してみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
8	生物の物理学：ダイエットの物理学	ダイエットをエネルギーの視点から考えなおすことで、ダイエットにどのような物理的制約があるのかを理解する。ダイエットで用いられるエネルギーの単位であるカロリーと物理的に定義されたジュールの関係を理解し、エネルギー保存則を加味した場合にダイエットすることの物理的な意味を考える。また運動している物体の有するエネルギーなどと食品などのエネルギーを比較することで、運動によるエネルギー消費の程度を検討する。	本時の予習として、エネルギー保存則の内容を確認しておくこと。本時の復習として、再度、運動や食品のエネルギーの値を比較してみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20
9	課題 1	学習してきた内容の理解度をチェックする。力や圧力といった概念やエネルギー保存則などを理解できているか確認する。また次元解析などを用いた質量や密度などの簡単な評価をすることができるか確認をする。これらの事項の理解度に応じ追加の説明をする。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120
10	地球の諸性質	地球に関する大きさ・質量と構造を学ぶ。また地球の大きさを二地点間の距離から推定する方法を理解し、実際の数値データから算出してみることにする。	本時の予習として、地球の半径・周の長さを調べてみることに。本時の復習として、円周の計算方法を確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
11	音の物理学：波の性質 1	音とは空気の疎密波であることから、波の物理的性質について学ぶ。波の有するは振幅(波高)・波速・波長およびこれらと関係付けられる周波数(振動数)を理解する。また波の特徴的な性質である、縦波と横波・回折・干渉(重ね合わせの原理を含む)・反射・屈折について理解し、なぜ直接見えない音源の音が聞き取ることができるのか説明できるように学ぶことにする。	本時の復習として、波の物理的特徴を全て整理すること。また波の性質も列挙すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20
12	音の物理学：波の性質 2	波の性質である「重ね合わせの原理」とは何か復習し、数学上はあらゆる波が正弦波の重ね合わせとして表現できる(フーリエ展開)ことを学ぶ。また固定端と自由端での波の挙動について理解する。波の重ね合わせの結果として定在波と呼ばれる波が生じることを学び、定在波の映像や音による定在波の実験を通じ、定在波について理解を深める。	本時の復習として、日常現象における定在波(定常波)の例を調べてみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
13	音の物理学：声と音	人間の音に対する認識である、音量(音の大きさ)・音程(音の高低)・音色と物理的な性質との対応を学ぶ。音の大きさは波のエネルギーと関係していること、音の高低は周波数と関係していることを理解する。また音色は音の物理的な特性とは関係がなく、波の形状によって定まることを学ぶ。具体的に理解するため、受講生の声を録音し、受講生の声の波形やスペクトルを観察する。	本時の復習として、音量・音程・音色と波の諸量との対応をまとめることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
14	共振・共鳴(力学)	共振・共鳴は、効率的にエネルギー伝達が起こる現象である。このため振動現象の中でも大きな事故を引き起こしうる。共振・共鳴とはどのような現象かを理解し、破壊的な現象が起きうることを理解する(タコマ橋の崩壊・地震と長周期振動)。	本時の復習として、講義内で示した以外の共振現象を調べてみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	課題2	音に関する諸事項や共振・共鳴について理解できているか確認する。波の物理的性質・音色と音の性質と関係などを理解できているか確認する。また共振・共鳴とは何かといったことや、共振・共鳴に関係する現象を把握しているか確認する。これらの事項の理解度に応じ追加の説明をする。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120

授業名	数理・データサイエンス基礎(健康栄養)	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	この講義では、数理・データサイエンス・Artificial Intelligence (AI) の社会に与える影響・データを扱う上での注意事項・データを扱うための表現・データから情報を抽出する方法を学ぶことを目的とする。従来より様々なデータを処理し、情報を抽出することは重要な作業とされていた。今日では、コンピュータの発達やインターネット等の情報網の発達により大量のデータが得られるようになったことやAIに代表される情報処理技術の進展により、いかにデータから情報を抽出するかということがこれまで以上に重要となった。これらの情報抽出は統計学を含む数的な扱いに基礎をおいており、昨今の数理データサイエンスを学ぶうえで数理的な扱いを含むデータ処理を理解しておくことが必須である。以上を踏まえ、本講義では、数理・データサイエンス・AIに基づく社会の変化、大量のデータを扱う場合の留意点、データを扱うための基礎的な数理表現、データから情報を抽出する基本的な方法を学ぶ。 フィードバックとして、リフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却や中間課題の説明等を行う。			
授業の到達目標	社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解する。具体的な目標は、 1. 社会におけるデータやAI利活用およびその留意事項等について説明できること 2. データを扱うために必要な数な扱い（冪・関数・行列・集合）ができるようになること 3. データの記述とデータからの情報抽出（検定・回帰）ができるようになること である。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	リフレクションペーパー・中間演習の結果・レポート課題による。成績評価への割合は、リフレクションペーパーの提出を20%、中間演習とレポート課題の割合をそれぞれ40%とする。	
テキスト	テキストを PDF として Web 上で配信する。			
参考書	前野 昌弘, 三國 彰, "統計解析", 日本実業出版社 (2000); 涌井 良幸, 涌井 貞美, "多変量解析", 日本実業出版社 (2001)			
学生への要望	事前に資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。			
位置付け・水準	GC1110			
ディプロマポリシーとの関係	「他との協調」「人間形成」			
オフィスタイム	月 3 限、火 3 限、木曜 1・2 限（芸術館 2 階 地域創成学科研究室No3）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の構成と数理・データサイエンス・AIによる社会の変化と動向	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。近年は大量のデータを取得し取り扱えるようになったことにより、データサイエンス・AIと呼ばれる分野が盛んになった。本時では、数理・データサイエンス・AIによって社会にどのような変化が生じているか、また今後はどのような方向に向かうと考えられるか概説する。	復習として、これまでの社会変化がどのようなものであったか整理してみることに。	30
2	利活用されているデータ・利用領域・利用技術・利活用の現場	社会では様々な種類のデータが活用されている。本時ではデータやAIの活用領域、利用するための技術、利活用例などについて学ぶことにする。	政府統計ポータルにアクセスし、少なくとも三つのデータもしくはグラフを確認すること。	30
3	データサイエンスと情報の保護	データサイエンスやAIの知識や技術を利用すると、様々な大量のデータを結合し、特徴を抽出することが可能となる。このことは利便性を生む反面、個人の行動・趣味などの秘匿すべき情報も分析できることを意味する。本時では、データを扱う上での留意事項を学ぶこととする。	Ethical, Legal and Social Implications (ELSI) について調べてみることに。 Society4.0とSociety5.0の違いを比較し整理してみることに。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	巾の演算	積の概念を発展させたものに冪がある。概念的には積と商で理解できるが、冪の演算に習熟すると様々な場面で計算が簡略化される。本時では冪とその演算規則について学ぶ。	復習として冪に関する演算規則を確認すること。また冪を用いた数値の表現について確認すること。	30
5	一次関数	一次関数は連続量を扱う数学では基本的な関数である。微分とも関連し応用範囲は広い。本時では一次関数とグラフの関係や回帰式などについて触れる。	復習として、一次関数の各係数の意味、グラフとの関係を再確認しておくこと。	45
6	ベクトルと行列	複数の数値はひとまとめにしてベクトルとすると扱いやすくなる。本時では、データを扱う際に必要となるベクトルとベクトルに作用する行列について学ぶ。	2行2列の行列を作成し、行列の積が非可換であることを確認すること。また逆行列が存在しない行列を具体的に構成してみること。	45
7	集合	数学の基礎の一つに集合がある。本時では部分集合や集合の積・和・差などの概念を導入する。また集合演算の基礎であるド・モルガンの法則やその応用方法を学ぶ。	復習として、集合の基本概念（空集合など）および集合間の演算について確認すること。	60
8	課題	これまで学修した内容に対する課題を提示する。本課題を通じ、これまでの学修内容を確認なものにする。また本時では本課題の説明も行う。	復習として、提示した課題を再度行ってみること。このことにより、理解が不足している部分を確認すること。	120
9	データとその記述	データには様々な種類がある。ここでは統計を適用する上で認識しておくべきデータの種類、基本的な統計量を学ぶ。実際に受講生自身で基本統計量を算出することとする。	復習として、データの種類毎に実例を探し、みる。また平均や分散などの特徴を再確認すること。	90
10	相関	二つの事柄に関係があるとき相関があるという。この相関を統計学的に見出す手法について学ぶ。また実際に受講生がデータから相関を算出することとする。	復習として、相関係数の定義を確認すること。また相関関数の値をみることで、あらゆる相関が判断できるわけではないことを確認すること。	45
11	検定の基礎	ある仮説が正しいか否かを統計的に調べる方法を検定という。本時では検定の基本的な考え方を学ぶ。検定を行うための前提条件である正規性や検定を行う過程で用いられる帰無仮説・優位水準・p値などの概念を学ぶ。また検定における過誤についても学ぶ。	検定で用いられる、正規性・帰無仮説・優位水準・p値などの用語を整理すること。	60
12	パラメトリック検定	検定する対象により様々な検定方法があるが、本時ではパラメトリックな平均値の検定を学び、受講生自身により平均値の検定を試みる。またパラメトリックな検定が利用できない場合に用いるノンパラメトリック検定について、その概略を学ぶ。	復習として、複数のデータで平均値の検定を行ってみること。	90
13	適合度の検定と独立性の検定	検定には、測定値が理論値と合致するか否かを判断するための適合度の検定や、二つの要素に関連性があるか否かを判断するための独立性の検定がある。本時ではこれらの検定の考え方を学ぶ。また簡単な例を通して、これらの検定を受講生自らが検定結果を確認することとする。	復習として、講義内で示した例において、数値を変えて適合度の検定や独立性の検定を行ってみること。	60
14	回帰分析による実データの分析	ある変数(目的変数)と他の変数(説明変数)からなる回帰式と呼ばれる式により分析することを回帰分析という。本時では回帰の基本的な考え方および線形回帰と非線形回帰の違いを学ぶ。その後、国・地方公共団体・産業界等によって収集された実データを分析する。分析するための処理を行い、その後、線形回帰によりデータを分析をする。一連の過程を受講生自身が行うことにより、回帰分析および実際の分析過程を学ぶことにする。	復習として、回帰の基本的な考え方を確認すること。また実際に回帰直線を求め、回帰直線の決定の仕方により、目的変数と説明変数の間に非対称が生じうることを確認すること。	90
15	まとめ	本科目の総まとめをする。どのような統計手法がどのような目的で使われたのか整理する。また総まとめとなるレポート課題を提示する。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

授業名	健康スポーツ論	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 浩明			
開講期				
授業の概要	GC1114 健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。 ③レポート、等は口頭またはコメントで書き返却します。			
授業の到達目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力（人間性）を身に付ける。また健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を教育の目的とする。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 人間形成 レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする。			
履修条件	幼児教育学科 1年生 健康栄養学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績の 評価方法・基準	レポート60点 平常点 40点（取組姿勢・提出物）	
テキスト	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」 「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。			
位置付け・水準	GC1114			
ディプロマポリシーとの関係	【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 人間形成 スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる			
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室			
アクティブラーニング実施内容	無し			
実務家教員の経歴	久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみ にどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べる の視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授 業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味 を持ち、運動やスポーツについてどう関わることのできる かについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うもので す。それは日常の生活や普段の行動にも通じるものがあり ます。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学 びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

授業名	スポーツ実技	配当年次 単位数	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 浩明			
開講期				
授業の概要	GC1115 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ④レポートは口頭またはコメントを書き返却をます。			
授業の到達目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力（人間性）を身に付ける。また健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を教育の目的とする。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 ・人間形成 レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする。			
履修条件	健康栄養学科 1年生	成績の 評価方法・基準	取組姿勢40点 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組みを重視します)	
テキスト	特になし（必要に応じて資料等配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：（財）日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	【ディプロマ・ポリシーとの関係】 ・他との協調 ・人間形成 スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる			
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室			
アクティブラーニング実施内容	無し			
実務家教員の経歴	久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	運動着、水分を準備してくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
5	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
6	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
8	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
9	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
10	バレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	バレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
12	バレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
13	バレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
14	バレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：バレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④バレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
15	実技のまとめ	◀まとめとして実技試験を行う▶ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

授業名	情報処理Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成・表計算について学習する。フィードバックとして、未提出物がある場合や自学自習欄の提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。			
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは提出物・課題により評価する。内容毎に課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は提出物を１５％、課題１を１５％、課題２を３５％、課題３を３５％とする。	
テキスト	イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office 365・Office 2021対応、noa出版(2022)			
参考書	なし。			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	GC1116			
ディプロマポリシーとの関係	「他との協調」「人間形成」			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえ、インターネットを利用するためのセキュリティーについて触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。 メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また Email を利用するためのセキュリティーについて学ぶ。 ローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。 また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味の理解とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、日本語変換の方法を再確認し、教科書の練習6を行ってみること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト1・確認テスト2を実施すること。 提出用課題を実施し、指定の期日までに提出すること。	80
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成して試みる。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.141までを読んでおくこと。このほか提出用課題を実施し、指定の期日までに提出すること。	80
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

授業名	キャリアデザインⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎森 みい			
開講期				
授業の概要	【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。 インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。 GU1122			
授業の到達目標	【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定	
テキスト	なし			
参考書	なし			
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。			
位置付け・水準	GU1122			
ディプロマポリシーとの関係	学修成果から人材を育成し、社会へと送り出す			
オフィスタイム	12時30分以降(月～金)			
アクティブラーニング実施内容	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。			
実務家教員の経歴	就職部長、キャリアコンサルタント			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要 4/11(Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する。	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え 4/18(Vコ4マ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップを具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
3	企業研究(講演) 5/16(Vコマ)	身近な経営者の講演を実施学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
4	事前指導 (ビジネス文書作成) (5/30Vコマ)	日誌の書き方、メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマールを確認しておく。	30
5	事前指導 (マナー講座) 6/20(Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究) 7/18(Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をす	30
7	インターンシップ実施 1班 8/26～8/30 2班 9/2～9/6	各企業において、夏季休業中(8月下旬～9月上旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
8	インターンシップ報告会 9/13(Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/13(IIコマ)	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

授業名	社会福祉概論	配当年次 単位数	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期			
授業の概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテーマに基づいて学習を進める。 （１）社会福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。 （２）ソーシャルワークの基本的知識と援助技術を学ぶ。 （３）社会福祉の法や制度について学ぶ。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	【達成課題】 （１）地域福祉の役割を理解し実行できる。 （２）社会福祉の「価値」を説明することができる。 （３）社会福祉の視点を取り入れた課題解決が立案できる。 【単位認定の最低基準】 地域福祉の課題とニーズについて 7 割が理解できている。		
履修条件	健康栄養学科 2年生	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト100点（2回実施：50点/回）
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房		
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。		
位置付け・水準	HN2402		
ディプロマポリシーとの関係	食と健康の理解、専門性で社会貢献		
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）		
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループ・ワーク		
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス及び社会福祉の理念	授業の進め方、評価方法について。 栄養士が社会福祉を学ぶ意義について理解する。	配布プリントで授業内容を確認する。	30
2	現代の社会福祉の背景	我が国の社会福祉の現状と課題について学修する。	配布プリントで授業内容を確認する。	30
3	社会福祉の歴史	社会保障の意義と我が国の社会保障の全体像を学修する	配布プリントで授業内容を確認する。	30
4	社会福祉の現状と課題①	医療保険制度の特徴と課題について学修する。 年金保険と介護保険について学修する。	配布プリントで授業内容を確認する。	30
5	社会福祉の現状と課題②	高齢者の生活と介護保険について学修する。	配布プリントで授業内容を確認する。	30
6	社会福祉の現状と課題③	公的扶助及び障がい者の生活の実態と障害者福祉について学修する。	配布プリントで授業内容を確認する。	30
7	社会福祉と法①	母子保健法と児童福祉法について学修する。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	30
8	社会福祉と法②	社会福祉とその関連法について地域保健法を中心に学修する。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	60
9	社会福祉と法③	社会福祉とその関連法規についてこれまでの学修成果を振り返る。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	60
10	社会福祉と統計①	平均余命、平均寿命、健康寿命について学修する。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	30
11	社会福祉と統計②	人口動態統計・静態統計について学修する。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	30
12	これまでの学習内容のまとめ①	「栄養士実力認定試験」の社会福祉概論の問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	「栄養士実力認定試験」の問題プリントを見直して、試験に備えること。	30
13	これまでの学習内容のまとめ②	「栄養士実力認定試験」の社会福祉概論の問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	「栄養士実力認定試験」の問題プリントを見直して、試験に備えること。	30
14	社会福祉の現状と課題④	社会保障制度全般について振り返り、関連動画を見て学修を深める。	配布されたプリントを読み返し、内容を把握すること。	30
15	社会福祉と統計及びこれまでの総まとめ	これまでの学修内容について復習する。小テストを実施。	これまでの学修内容を振り返り、定期試験に備えること。	60

授業名	食品学Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎澤渡 優喜			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 調理や食品加工をするためには食品の特性を知る必要があります。本講義では食品の特性やその加工品について解説します。 〔授業全体の内容の概要〕 植物性食品および動物性食品についてそれらの特性や代表的な加工品について解説します。更に、食品の保存方法と規格基準についても解説します。 〔課題に対するフィードバックの方法〕 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点后に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバックします。			
授業の到達目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 代表的な食品の特性や加工食品の加工方法について専門的な知識が身についており、調理に応用したり他者に説明をしたりできるようになっていることを本授業の達成目標とします。 〔単位認定の最低基準〕 授業内容の7割程度を理解していること。			
履修条件	短期大学部 健康栄養学科 2年	成績の 評価方法・基準	確認問題40点、定期試験60点とし、計60点以上で単位を認定します。	
テキスト	<初めて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ④ 食べ物と健康Ⅱ 第2版 知っておきたい食品素材と加工の基礎（㈱化学同人）（本体2,100円＋税）			
参考書	なし。			
学生への要望	食品学Ⅰで学んだ食品成分名を復習しておいて下さい。食品学Ⅱでも食品成分名は頻繁に出てきます。食品学Ⅱでは私たちが普段食べている食品の勉強をします。この食品はどのように製造されているのかなど、食品に興味を持って受講をして下さい。			
位置付け・水準	HN2322			
ディプロマポリシーとの関係	食と健康の理解、専門性で社会貢献			
オフィスタイム	時間： 火曜日16:20～17:05、水曜日16:20～17:05、 場所： 家政学館3階 食品衛生学研究室			
アクティブラーニング実施内容	－			
実務家教員の経歴	食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。特に食品の加工については、食品企業での経験をもとに講義します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	穀類とその加工品	米、小麦、大麦、トウモロコシ、ソバおよびその他の穀類について解説します。穀類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・穀類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・穀類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	イモ類および種実類とそれらの加工品	ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ヤマイモおよびその他のイモ類、クリ、ギンナン、アーモンド、落花生、ゴマおよびその他の種実類について解説します。イモ類と種実類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・イモ類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・イモ類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。 ・種実類の特徴と主要な加工品を説明できる。	p15～23をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	豆類とその加工品	大豆、小豆、インゲンマメ、エンドウおよびその他の豆類について解説します。豆類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・豆類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・豆類の加工に伴う食品成分の物性および化学的、栄養学的変化を説明できる。	p24～34をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
4	野菜類とその加工品	葉菜類、茎菜類、根菜類、果菜類、花菜類、未熟豆および山菜類について解説します。野菜類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・野菜類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・野菜類の加工に伴う食品成分の物性および化学的、栄養学的変化を説明できる。	p35～48をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
5	果実類とその加工品	仁果類、核果類、準仁果類、しょう果類、堅果類およびその他の果実類について解説します。果実類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・果実類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・果実類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p49～57をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	キノコ類とその加工品	シイタケ、エノキタケ、シメジ、マッシュルーム、ナメコ、マイタケ、エリンギ、マツタケ、キクラゲ、トリュフおよびその他のキノコ類について解説します。キノコ類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・キノコ類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・キノコ類の加工に伴う食品成分の栄養学的変化を説明できる。	p58～61をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	藻類とその加工品	緑藻類、褐藻類および紅藻類について解説します。藻類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・藻類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・藻類の加工に伴う食品成分の物性変化を説明できる。	p62～65をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	魚介類とその加工品	魚類、甲殻類および軟体動物、魚介類の成分、筋肉構造、死後硬直、鮮度判定および魚介類の加工品について解説します。魚介類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・魚類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・魚類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p66～86をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
9	肉類とその加工品	食肉の種類、成分、筋肉構造、死後硬直および加工品について解説します。食肉の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・肉類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・肉類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p87～98をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	卵類とその加工品	卵の種類、構造、成分および加工品について解説します。卵類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・卵類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・卵類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p99～109をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
11	乳類とその加工品	乳の成分および加工品について解説します。乳の特性および乳製品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・乳類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・乳類の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。	p110～121をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
12	食用油脂、調味料	植物油脂、動物油脂、食用加工油脂、食塩、甘味料、発酵調味料、うま味調味料および風味調味料について解説します。 食用油脂と調味料の種類、特性および加工方法について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・食用油脂の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・食用油脂の加工に伴う食品成分の物性および化学的变化を説明できる。 ・主要な調味料の特徴と加工原理を説明できる。	p123～138をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
13	香辛料、嗜好品	香辛料および嗜好品について解説します。香辛料と嗜好品の種類および特徴について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・主要な香辛料の特徴を説明できる。 ・主要な嗜好品の特徴と加工原理を説明できる。 ・主要な嗜好品の加工に伴う食品成分の化学的变化を説明できる。	p138～150をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
14	食品の保存	食品の保存性に関わる、水分活性、pH、温度および殺菌について解説します。食品の保存性を高める方法について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・食品の劣化原因とその防止方法について説明できる。	p151～153をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
15	食品の規格	食品の規格・表示、保健機能食品、特定用途食品および機能性表示食品について解説します。食品の規格・表示について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・特別用途食品について説明できる。 ・保健機能食品（特定保健用食品、機能性表示食品、栄養機能食品）について説明できる。	p153～168をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

授業名	食品衛生学	配当年次 単位数	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎澤渡 優喜			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 栄養士又はフードスペシャリストとして、安全な食品とはどのようなものか？どのように食の安全性が担保されているのかを理解してもらうことを本授業の目的としています。 〔授業全体の内容の概要〕 食品衛生と法規、食品の変質、食中毒、経口感染症・寄生虫、食品中の汚染・有害物質、食品添加物、食品の衛生管理と食品の安全性問題および食品の容器包装について解説します。 〔課題に対するフィードバックの方法〕 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点后に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバックします。			
授業の到達目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 栄養士又はフードスペシャリストとして、普段食べている食品の安全性がどのように担保されているのかを理解しており、また、自ら調理をする場合、食中毒を防ぐためにはどのような点に注意すべきかを理解していることを本授業の達成目標とします。 〔単位認定の最低基準〕 授業内容の7割程度を理解していること。 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕			
履修条件	短期大学部 健康栄養学科 1年	成績の 評価方法・基準	確認問題；40点、期末試験；60点とし、60点以上の得点で単位を認定します。	
テキスト	<はじめて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ⑪ 食品衛生学 食の安全性を理解するために（（化学同人）本体2,000円＋税）			
参考書	なし。			
学生への要望	食の安全は私たちににとってとても身近な事柄です。 ニュースなどで報道される食の安全に関する問題に興味を持ち、積極的に授業に参加して下さい。			
位置付け・水準	HN2223			
ディプロマポリシーとの関係	食と健康の理解、専門性で社会貢献			
オフィスタイム	時間： 火曜日16:20～17:05、水曜日16:20～17:05、 場所： 家政学館3階 食品衛生学研究室			
アクティブラーニング実施内容	－			
実務家教員の経歴	食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに、安全な食品について講義をします。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	食品衛生と法規	食品衛生とは何か？について述べた後に食品衛生行政について概説します。食品衛生に関わる体制や法律などを理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品衛生、食品安全性確保に関する法規（食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法など）と行政制度を概説できる。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	食品と微生物	私たちの肉眼では見えないほど小さな生物を微生物と呼びます。この微生物は私たちの周囲に存在し有用な微生物もいれば有害な微生物もあります。また、有用でも有害でもない微生物もあります。多くの場合、私たちが食べる食品にも微生物が存在します。本講義では食品に関係する微生物の特徴について解説します。 各微生物の特徴や微生物の増殖条件などを理解して下さい。	事前に配布するプリントを読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
3	食品の変質	食品の変質には微生物学的な変質（腐敗や酸敗など）と化学的な変質があります。本講義では食品の変質、鮮度判定および変質の防止方法について解説します。変質の種類、判定方法および防止方法を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品の劣化原因とその防止方法について説明できる。	p17～28をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	食中毒の概要	食中毒の定義、分類および発生状況について解説します。食中毒の種類や発生状況の特徴を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食中毒の定義、発生状況について説明できる。	p29～38をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
5	微生物性食中毒①	サルモネラやノロウイルスなどの微生物が原因となる食中毒について、原因微生物の特徴、主な原因食品、症状および予防策などについて解説します。原因微生物の種類、原因食品、症状および予防策を理解して下さい。	p38～47をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	微生物性食中毒②	同上。 〔学修目標〕 ・病原微生物による食中毒の原因や主な汚染源、症状、予防法について説明できる。	p47～58をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	化学性食中毒と自然毒食中毒	化学物質の混入や食品の変質で発生する化学物質が原因となる化学性食中毒およびフグ毒や毒キノコなどの自然毒食中毒について解説します。 食中毒の原因物質名や食中毒の発生原因を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・自然毒および化学性の食中毒の原因や主な汚染源、症状、予防法について説明できる。	p58～71をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	食中毒の予防と消毒・殺菌・減菌 経口感染症・人畜共通感染症	食中毒予防の基本的な考え方および微生物の消毒・殺菌・減菌方法について解説します。食中毒予防法と消毒・殺菌・減菌の実際の手段を理解して下さい。 主な経口感染症と人畜共通感染症について解説します。原因微生物の種類、感染源および症状を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品による感染症（人畜共通感染症を含む）とその予防法について説明できる。	p71～74をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。 p77～80、p87～88をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
9	寄生虫症	食品の種類によっては、寄生虫に注意をしなくてはなりません。魚介類、畜肉類、野菜・果実類・水などから感染の恐れのある寄生虫について解説します。特に、寄生虫の種類と原因食品を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品による寄生虫症とその予防法について説明できる。	p80～87をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
10	食品中の汚染・有害物質	食品に関連する有害物質として、カビ毒、化学物質、内分泌攪乱物質、有害金属、放射性物質、加熱調理で生成する有害成分および食物アレルギーについて解説します。各有害物質の名前と特徴を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食物アレルギーの原因食品について説明できる。 ・食品汚染物質（カビ毒、有害元素、放射性物質、農薬など）について説明できる。	p91～105をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
11	食品添加物（1）（総論）	食品添加物の役割、安全性、使用基準および表示について解説します。食品添加物の使用基準の決定方法の理解は必須ですが、表示のルールも複雑なので正しく理解をするようにして下さい。 〔学修目標〕 ・食品添加物の安全性について説明できる。	p107～111、p119～124をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	食品添加物（2）（各論）	食品添加物（1）に続き、各食品添加物の機能や特徴などについて解説します。食品添加物の使用目的を理解して下さい。 〔学修目標〕 食品添加物の種類と用途について説明できる。	p111～118、p124～125をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
13	食品衛生管理	食中毒を発生させないためには、どのようなことに注意をして調理や食品加工をすべきか？本講義では、食品取扱施設や家庭などでの一般的な衛生管理の考え方について解説します。更に、HACCPについても解説します。食中毒を防止するための考え方を理解して下さい。 〔学修目標〕 食品衛生管理（一般的衛生管理プログラム、HACCPなど）について説明できる。	p127～135をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
14	食品の安全性問題	遺伝子組換え食品、放射線と食品、農薬と食品およびリスク分析と食品の安全性に関する国際化について解説します。それぞれの安全性問題について理解して下さい。 〔学修目標〕 - 食品のハザード（危害要因）とリスクについて説明できる。 - 食品衛生、食品の安全性確保に関するリスク分析（リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション）の考え方を説明できる。	p137～154をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
15	その他	その他として、食品に使用する包装資材の種類と用途、食品による窒息事故リスクについて説明します。 〔学修目標〕 食品による窒息とその予防について説明できる。	事前に配布するプリントをよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

授業名	保育原理	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	本科目は、保育を学ぶための入門にあたる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史を踏まえ、保育の必要性、国の施策にみる保育の基本、保育の目標や方法などについて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取り入れる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①保育の意義を、7割以上理解できたか。 ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を、7割以上理解できたか。 ③保育の思想と歴史について、7割以上理解できたか。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度（30点）、レポート（30点）	授業内試験（40点）
テキスト	西村望編『教育原理』みらい社			
参考書	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）			
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。			
位置付け・水準	CE2101			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の本質理解」「問題解決力」			
オフィスタイム	火、金 14：40～16：10 833研究室			
アクティブラーニング実施内容	グループ・ワーク			
実務家教員の経歴	盲学校・小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育のイメージをする。	シラバスを確認し、自身の乳幼児期のことを、家族から聴いたり思い出したりする。	30
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。	ヒト以外の動物の生誕について調べる。	60
3	保育の意義	ヒトから人間への成長となるための保育意義について考える。小レポートにまとめる。	前回の授業内容を振り返る。本時の授業から保育の意義を整理する。	60
4	「保育所保育指針」における保育	「保育所保育指針」について、ワーク・シートに記入しながら、ねらいや内容について学ぶ。	「保育所保育指針」を読む。	60
5	養護と教育	保育所の役割や養護と教育の関連について学ぶ。また、子ども・子育て支援制度を知り、保育施設と家庭との関係を学ぶ。	「保育所保育指針」をよく読む。	60
6	「幼稚園教育要領」における保育	「幼稚園教育要領」について、ワーク・シートに記入しながら学ぶ。	「幼稚園教育要領」を読む。	60
7	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における保育	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」と比較しながら、学ぶ。	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読む。	60
8	保育の目標	小学校就学までに何を育んだらよいのか。10のねらいを知り、保育活動の留意点や計画を立てていくための基本を学ぶ	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における10のねらいの位置づけを確認する。	60
9	西洋と日本の子ども観	中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどるとともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知る。	世界史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	日本の保育思想と歴史	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や子守学校について学ぶ。	日本史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
11	日本で初めての幼稚園	東京女子師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	明治時代の社会変動について確認する。	60
12	倉橋惣三の保育論	東京女子師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	60
13	倉橋惣三の保育思想	『育ての心』や『幼稚園雑草』を読み、感想を出し合い、保育のあるべき姿を考えまとめる。	配布資料を通読する。これまで学んだことの整理をする。	90
14	外国の保育の現状と課題	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを学ぶ。	アメリカ社会について、イメージがもてるように情報を獲得する。これまで学んだことの整理をする。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験をとおし確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。	60

授業名	教育原理	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて、7割以上理解できたか。 ②代表的な教育思想と実践について、7割以上理解できたか。 ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について7割以上理解できたか。			
履修条件	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績の 評価方法・基準	授業内試験（４０％）、レポート（３０％）、授業参加度（３０％）	
テキスト	西村望編『教育原理』みらい社、２０１８年。			
参考書	「幼稚園教育要領」（平成２９年３月告示 文部科学省） 「保育所保育指針」（平成２９年３月告示 厚生労働省） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成２９年３月告示 内閣府）			
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
位置付け・水準	CE2102			
ディプロマポリシーとの関係	「保育の本質理解」「問題解決力」			
オフィスタイム	火、金 １４：４０～１６：１０ ８３３研究室			
アクティブラーニング実施内容	ワーク・シートを使用した討議			
実務家教員の経歴	盲学校、小学校教員経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められる乳幼児期の学びを考える。	シラバスを読み、保育原理の授業で学んだことを振り返る。	30
2	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的について考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社会的状況との関連にあることを学ぶ。	教科書の26～37頁を通読する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
3	近代学校教育制度の始まり	今日の学校教育制度は、近代と呼ばれる時代に誕生した。イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子どもを保護するために政府によって制定された「工場法」により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、工場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をとおした教育という考え方を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
4	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案された。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考することをとおして知識を獲得する教育の考えがあったことを学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
5	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコメニウスの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、コメニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想について学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子どもがゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミール』の一節を読んでみる。	教科書の該当箇所を読む。配布資料を読む。	60
7	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書をととした深い学びの方法を知る。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60
8	貧民の救済と直観教育	貧民の子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたベスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気や道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することとおして理解する。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60
9	教育機関としての幼稚園	単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚園を創設したフレーベルについて、恩物の体験をととして学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	120
10	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。これまで学んできたことを整理する。	60
11	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。経験をととした学び、生の素材を使用した実践など、幼児期を含むラボラトリー・スクールの実践をととして、総合的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。	30
12	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。	これまで経験してきた問題解決学習からデューイの理論を確認する。	60
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むこととおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。	実習時に、ヒヤリとしたことを思い出し、何に気をつければよいのかを確認する。	60
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。	学んできたことを整理し、説明できるように準備する。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。	60

授業名	子ども家庭福祉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎山脇 功次			
開講期				
授業の概要	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。 *授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	(1) 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 (2) 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 (3) 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 (4) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 (5) 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 (6) 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト100点（2回実施：50点/回）	
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。			
参考書	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房			
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。			
位置付け・水準	CE2204			
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解、問題解決力			
オフィスタイム	水曜日4限、木曜日4限 場所：822号室（山脇研究室）			
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／イベント／グループワーク			
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念と概念について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷	子ども家庭福祉の歴史の変遷について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
3	子どもの人権擁護	子どもの人権擁護について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系	子ども家庭福祉の制度と実施体系について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
5	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
6	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
7	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
8	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
9	障害のある子どもへの対応	障害のある子どもへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
10	少年非行等への対応	少年非行等への対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
11	少子化と地域子育て支援	少子化と地域子育て支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
12	子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難	子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
13	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
14	子ども家庭福祉の施設と専門性	子ども家庭福祉の施設と専門性について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80
15	地域における連携・協働とネットワーク	地域における連携・協働とネットワークについて説明する。	講義の内容から関心のあることについて自主的に学びを深める。	80

授業名	社会福祉	配当年次 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期			
授業の概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテーマに基づいて学習を進める。 （１）社会福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。 （２）ソーシャルワークの基本的知識と援助技術を学ぶ。 （３）社会福祉の法や制度について学ぶ。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	（１）社会福祉のなか保育士の役割を理解し実行できる。 （２）社会福祉の「価値」を説明することができる。 （３）社会福祉の相談援助を実践することができる。 （４）単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。		
履修条件	幼児教育学科	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト100点（2回実施：50点/回）
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房		
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。		
位置付け・水準	CE2104		
ディプロマポリシーとの関係	教育・保育の本質理解, 問題解決力,		
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）		
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク		
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション 社会福祉とは何か（保育と社会福祉）	社会福祉とは何かについて説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
2	社会福祉の基礎概念	社会福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
3	社会福祉の歴史と展開	日本と諸外国の歴史について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
4	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉の法律と行政について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
5	社会保障・公的扶助	社会保障制度について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
6	社会福祉の機関と施設	厚生労働省、児童相談所、社会福祉施設等について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
7	社会福祉の援助と方法	ソーシャルワーク等について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
8	社会福祉のこれまでのまとめ①	社会福祉（前半部分）のふりかえりとまとめを行います。	教科書を予習・復習すること。	80
9	子ども家庭福祉①	子ども家庭福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
10	子ども家庭福祉②	子ども家庭福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
11	障がい者福祉 ①	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
12	障がい者福祉 ②	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
13	障がい者福祉 ③	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
14	地域福祉	地域で支える社会福祉について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
15	社会福祉（後半部分）のまとめ②	社会福祉のふりかえりとまとめを行います。	教科書を予習・復習すること。	80

授業名	情報処理Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢 米本 順子 松本 侑子		
開講期			
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成・表計算について学習する。 フィードバックとして、未提出物がある場合や提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。		
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは提出物・課題により評価する。内容毎に課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は提出物を15%、課題1を15%、課題2を35%、課題3を35%とする。
テキスト	イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office 365・Office 2021対応、noa出版（2022）		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
位置付け・水準	CD1130		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）☑		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理工情情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえ、インターネットを利用するためのセキュリティについて触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。 メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また Email を利用するためのセキュリティについて学ぶ。 ローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。 また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト1を実施すること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみること。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.141までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題 3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

授業名	キャリアデザインⅡ（地域創成学科）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎森　　みい		
開講期			
授業の概要	【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。 インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。 GC1118		
授業の到達目標	【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献、多様な課題を自らの手で発見し、それらを分析し解決する力を身につける事を目標とを目標としています。		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	就業体験50％・報告会10％・提出物10％「認」評価判定
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
位置付け・水準	GC1122		
ディプロマポリシーとの関係	学修成果から人材を育成し、社会へと送り出す		
オフィスタイム	12時30分以降(月～金)		
アクティブラーニング実施内容	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
実務家教員の経歴	就職部長、キャリアコンサルタント		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要 4/11(Ｖコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する。	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え 4/18(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップを具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
3	企業研究（講演） 5/16 （Ｖコマ）	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていくか、また、人生をどのように生きていくか、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
4	事前指導 （ビジネス文書作成） 5/30（Ｖコマ）	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマールを確認しておく。	30
5	事前指導 （マナー講座） 6/20（Ｖコマ）	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/20 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30
7	インターンシップ 実施 1班8/26～8/30 2班9/2～9/6	各企業において、夏季休業中 (8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
8	インターンシップ報告会 9/13 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/13 (IIコマ)	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

授業名	生涯学習概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎瀬谷 真理子		
開講期			
授業の概要	「生涯学習」の現代的意義と「社会教育」の概念と意義について、基本的な内容の理解をしていきます。その理解を踏まえて、多角的な視点から「生涯学習」を分析し、社会教育施設としての図書館、博物館（美術館含む）、公民館等の役割について考察するとともに学習支援者としての役割について考察していきます。授業全体を通して、主体的で対話的な深い学びの実践を目指します。毎回、授業の内容から課題をとらえ実施する課題レポートは、評価を加えて次回授業冒頭に返却し、フィードバックします。また、「学び」について様々な角度から考えていくため、現代的課題をとらえながら我が国の現状と課題について考え、未来に向けた学びの視点を育んでいきます。さらに最終回の授業において、授業全体をフィードバックします。 なお、福島県教育行政において実務経験である社会教育課勤務を活かした社会教育主事の視点での実践的な指導を行うとともに学校教育現場の実務経験をふまえながら学校教育との関連性を持たせ、社会教育施設の役割や生涯学習の意義を捉える観点を重視します。		
授業の到達目標	1.現代的課題を踏まえ「生涯学習」の意義と必然性を理解する。 2.「社会教育」と「生涯学習」の関連性を理解する。 3.「生涯学習」の観点から社会教育施設の意義を理解する。 4.「知の拠点」としての社会教育施設の役割を理解する。 5.家庭教育について現状と課題を把握し、地域における家庭教育支援のあり方を考える。 6.主体的で対話的な学びを通じて、生涯学習を推進するための学習支援者としての実践力を育む。 単位認定の最低基準は、上記1～6の総合的評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	科目を選択履修した者、司書、学芸員補資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	自宅学習の課題として出される課題レポート（40％）、最終回のまとめの授業で実施される理解度確認テスト（60％）の内容で総合評価し、60%以上が合格となる。
テキスト	二訂「生涯学習概論」執筆・編集代表 馬場祐次朗 授業ごとに配布されるプリント、内容をまとめたノートと一緒にファイリングすること。		
参考書	・山本順一、前平泰志、渡邊洋子監修『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、2014年 ・浅井経子編著『生涯学習概論－生涯学習社会への道－増補改訂版』理想社		
学生への要望	「生涯学習」とは、何か。「学ぶ」とは何か。未来に向けて何が課題となっているのか。社会教育の果たす役割と社会教育施設（図書館、博物館、美術館、公民館等）の意義を踏まえ、確かな知識を獲得しながら、自己の思考を展開していく主体的な姿勢を持って授業に臨んでください。		
位置付け・水準	CD1104		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、創造的思考力、主体的行動力		
オフィスタイム	家政学館 4 F被服学実習室 月曜日 1 限		
アクティブラーニング実施内容	課題について、自分自身の考えをレポートにまとめた内容を発表する。		
実務家教員の経歴	福島県立高等学校校長、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	前半は、授業を受けるにあたっての一般的な注意事項や授業計画・評価方法等について説明する。生涯学習について導入を行う。 「学び」について、次の授業までにレポートにまとめる。	ノート整理 課題レポート	90
2	「生涯学習」の現代的意義	前時の教育モデルに関する受講生の認識を基盤にしながら、「生涯学習」とは何か、「学ぶ」とは？について理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
3	「生涯学習振興施策」の動向	「生涯学習論」について、リカレント教育について、学びについて理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
4	「社会教育」の概念と意義	「社会教育」の概念と意義について理解を深め「社会教育」の特質について注目し、日本における歴史的展開とその意義を理解する。	ノート整理 課題レポート	90
5	「社会教育」の特質	「社会教育」の特質について理解し、デンマークにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	「社会教育」の対象	「社会教育」の対象として学習者の特性を理解し、「社会教育」の内容、方法、形態について学ぶ。	ノート整理 課題レポート	90
7	日本における社会教育の歴史的展開	日本における社会教育の歴史的展開とその意義について理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
8	社会教育の基本法令・施策	社会教育の基本法令から学校教育との連携やその補完機能としての期待を担った社会教育の役割を理解する。	ノート整理 課題レポート	90
9	社会教育に関する団体と指導者	社会教育に関する団体について理解を深め、行政との関係と団体への学びの支援、社会教育に関する指導者について学ぶ。	ノート整理 課題レポート	90
10	社会教育施設の意義と役割	社会教育施設の法的根拠や「知の拠点」として果たす役割について、各社会教育施設の特徴を把握しながら理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
11	社会教育施設における事業と生涯学習	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、図書館、公民館における事業について理解する。	ノート整理 課題レポート	90
12	生涯学習社会と家庭教育	現代社会における子育ての現状と課題を把握しながら、地域における家庭教育支援に向けた生涯学習施策について考える。スウェーデンにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深め、我が国との比較により、今後の支援策の在り方を考える。	ノート整理 課題レポート	90
13	生涯学習社会と学校教育	学校教育との連携において社会教育の果たす役割を認識しながら、「学校」「家庭」「地域」の一体となった教育を推進していくために必要な施策について考える。	ノート整理 課題レポート	90
14	現代的課題と生涯学習の役割	知識を創る学習を奨励する意味での「知識基盤社会」の持つ可能性と課題とを明らかにする。	ノート整理 課題レポート	90
15	授業のまとめ	「生涯学習概論」についての総括として、授業のまとめを行う。	確認テスト レポート	90

授業名	数理・データサイエンス基礎(地域創成)	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	この講義では、数理・データサイエンス・Artificial Intelligence (AI) の社会に与える影響・データを扱う上での注意事項・データを扱うための表現・データから情報を抽出する方法を学ぶことを目的とする。従来より様々なデータを処理し、情報を抽出することは重要な作業とされていた。今日では、コンピュータの発達やインターネット等の情報網の発達により大量のデータが得られるようになったことやAIに代表される情報処理技術の進展により、いかにデータから情報を抽出するかということがこれまで以上に重要となった。これらの情報抽出は統計学を含む数的な扱いに基礎をおりており、昨今の数理データサイエンスを学ぶうえで数理的な扱いを含むデータ処理を理解しておくことが必須である。以上を踏まえ、本講義では、数理・データサイエンス・AIに基づく社会の変化、大量のデータを扱う場合の留意点、データを扱うための基礎的な数理表現、データから情報を抽出する基本的な方法を学ぶ。 フィードバックとして、リフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却や中間課題の説明等を行う。		
授業の到達目標	社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解する。具体的な目標は、 1. 社会におけるデータやAI利活用およびその留意事項等について説明できること 2. データを扱うために必要な数な扱い（冪・関数・行列・集合）ができるようになること 3. データの記述とデータからの情報抽出（検定・回帰）ができるようになること である。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること		
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	リフレクションペーパー・中間演習の結果・レポート課題による。成績評価への割合は、リフレクションペーパーの提出を20%、中間演習とレポート課題の割合をそれぞれ40%とする。
テキスト	テキストを PDF として Web 上で配信する。		
参考書	前野 昌弘, 三國 彰, "統計解析", 日本実業出版社 (2000); 涌井 良幸, 涌井 貞美, "多変量解析", 日本実業出版社 (2001)		
学生への要望	事前に資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。		
位置付け・水準	CD1108		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」		
オフィスタイム	月 3 限、火 3 限、木曜 1・2 限（芸術館 2 階 地域創成学科研究室No3）		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の構成と数理・データサイエンス・AIによる社会の変化と動向	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。近年は大量のデータを取得し取り扱えるようになったことにより、データサイエンス・AIと呼ばれる分野が盛んになった。本時では、数理・データサイエンス・AIによって社会にどのような変化が生じているか、また今後はどのような方向に向かうと考えられるか概説する。	復習として、これまでの社会変化がどのようなものであったか整理してみることに。	30
2	利活用されているデータ・利用領域・利用技術・利活用の現場	社会では様々な種類のデータが活用されている。本時ではデータやAIの活用領域、利用するための技術、利活用例などについて学ぶことにする。	政府統計ポータルにアクセスし、少なくとも三つのデータもしくはグラフを確認すること。	30
3	データサイエンスと情報の保護	データサイエンスやAIの知識や技術を利用すると、様々な大量のデータを結合し、特徴を抽出することが可能となる。このことは利便性を生む反面、個人の行動・趣味などの秘匿すべき情報も分析できることを意味する。本時では、データを扱う上での留意事項を学ぶこととする。	Ethical, Legal and Social Implications (ELSI) について調べてみることに。 Society4.0とSociety5.0の違いを比較し整理してみることに。	60
4	巾の演算	積の概念を発展させたものに冪がある。概念的には積と商で理解できるが、冪の演算に習熟すると様々な場面で計算が簡略化される。本時では冪とその演算規則について学ぶ。	復習として冪に関する演算規則を確認すること。また冪を用いた数値の表現について確認すること。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	一次関数	一次関数は連続量を扱う数学では基本的な関数である。微分とも関連し応用範囲は広い。本時では一次関数とグラフの関係や回帰式などについて触れる。	復習として、一次関数の各係数の意味、グラフとの関係を再確認しておくこと。	45
6	ベクトルと行列	複数の数値はひとまとめにしてベクトルとすると扱いやすくなる。本時では、データを扱う際に必要となるベクトルとベクトルに作用する行列について学ぶ。	2行2列の行列を作成し、行列の積が非可換であることを確認すること。また逆行列が存在しない行列を具体的に構成してみることに。	45
7	集合	数学の基礎の一つに集合がある。本時では部分集合や集合の積・和・差などの概念を導入する。また集合演算の基礎であるド・モルガンの法則やその応用方法を学ぶ。	復習として、集合の基本概念（空集合など）および集合間の演算について確認すること。	60
8	課題	これまで学修した内容に対する課題を提示する。本課題を通じ、これまでの学修内容を確実なものにする。また本時では本課題の説明も行う。	復習として、提示した課題を再度行ってみること。このことにより、理解が不足している部分を確認すること。	120
9	データとその記述	データには様々な種類がある。ここでは統計を適用する上で認識しておくべきデータの種類、基本的な統計量を学ぶ。実際に受講生自身で基本統計量を算出することとする。	復習として、データの種類毎に実例を探してみることに。また平均や分散などの特徴を再確認すること。	90
10	相関	二つの事柄に関係があるとき相関があるという。この相関を統計学的に見出す手法について学ぶ。また実際に受講生がデータから相関を算出することとする。	復習として、相関係数の定義を確認すること。また相関関数の値をみることで、あらゆる相関が判断できるわけではないことを確認すること。	45
11	検定の基礎	ある仮説が正しいか否かを統計的に調べる方法を検定という。本時では検定の基本的な考え方を学ぶ。検定を行うための前提条件である正規性や検定を行う過程で用いられる帰無仮説・優位水準・p値などの概念を学ぶ。また検定における過誤についても学ぶ。	検定で用いられる、正規性・帰無仮説・優位水準・p値などの用語を整理すること。	60
12	パラメトリック検定	検定する対象により様々な検定方法があるが、本時ではパラメトリックな平均値の検定を学び、受講生自身により平均値の検定を試みることにする。またパラメトリックな検定が利用できない場合に用いるノンパラメトリック検定について、その概略を学ぶ。	復習として、複数のデータで平均値の検定を行ってみること。	90
13	適合度の検定と独立性の検定	検定には、測定値が理論値と合致するか否かを判断するための適合度の検定や、二つの要素に関連性があるか否かを判断するための独立性の検定がある。本時ではこれらの検定の考え方を学ぶ。また簡単な例を通して、これらの検定を受講生自ら行い検定結果を確認することとする。	復習として、講義内で示した例において、数値を変えて適合度の検定や独立性の検定を行ってみること。	60
14	回帰分析による実データの分析	ある変数(目的変数)と他の変数(説明変数)からなる回帰式と呼ばれる式により分析することを回帰分析という。本時では回帰の基本的な考え方および線形回帰と非線形回帰の違いを学ぶ。その後、国・地方公共団体・産業界等によって収集された実データを分析する。分析するための処理を行い、その後、線形回帰によりデータを分析をする。一連の過程を受講生自身が行うことにより、回帰分析および実際の分析過程を学ぶことにする。	復習として、回帰の基本的な考え方を確認すること。また実際に回帰直線を求め、回帰直線の決定の仕方により、目的変数と説明変数の間に非対称が生じうることを確認すること。	90
15	まとめ	本科目の総まとめをする。どのような統計手法がどのような目的で使われたのか整理する。また総まとめとなるレポート課題を提示する。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

授業名	図書館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	「図書館」とは何か、その意義と役割を、その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者、大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準は、①内容の8割を理解すること、②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることである。			
履修条件	地域創成学科に在籍する1年生。司書ユニット受講の有無は問わない。	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	『図書館情報学基礎資料』 樹村房			
参考書	大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
位置付け・水準	CD2110			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館概論で何を学ぶか 大学の講義でのノートのとり方	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	イントロダクション	図書館概論で何を学ぶか いま図書館をめぐる起きていること	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館」が存在する理由	体験の違いによる異なる「図書館」像 社会的共通資本 ユネスコ公共図書館宣言ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	近代日本における公共図書館の歴史（その1）	日本の「公共図書館」事始め 「図書館」以前 新思潮としての「図書館」紹介	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	近代日本における公共図書館の歴史（その2）	リクエストアワー（第1回）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	近代日本における公共図書館の歴史（その3）	日本の「公共図書館」事始め 新思潮としての「図書館」紹介（続） 「書籍館（しょじやくかん）」の設置 帝国図書館へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	近代日本における公共図書館の歴史（その４）	日本の「公共図書館」事始め 明治大正期の図書館を支えた「私立図書館」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	近代日本における公共図書館の歴史（その５）	「通俗図書館」という言葉の登場 教育会図書館の設立 東京市立図書館の設立	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	近代日本における公共図書館の歴史（その６）	リクエストアワー（第2回）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	近代日本における公共図書館の歴史（その７）	福島県の図書館事始め	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	近代日本における公共図書館の歴史（その８）	図書館法制度のはじまり 大正デモクラシーと公共図書館 関東大震災と図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	近代日本における公共図書館の歴史（その９）	文部省図書館員教習所の設立 福島県の公共図書館史（続） 国家による図書館統制の強化 第二次世界大戦 戦後の再建	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	近代日本における公共図書館の歴史（その１０）	映画「格子なき図書館」（1950）上映と解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	近代日本における公共図書館の歴史（その１１）	図書館法制定後の図書館業界 『中小レポート』の成立 『市民の図書館』の成功	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	近代日本における公共図書館の歴史（その１２）	映画「図書館とこどもたち」（1979）上映と解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	博物館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘 仲田 佐和子		
開講期			
授業の概要	実務経験を活かし、博物館の様々な側面を経験に基づいて講義を行う。博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に地域創成学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け水準 CD2120		
授業の到達目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。 博物館利用者として、十分な知識を持つこと。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	地域創成学科学生及び学芸員資格取得希望学生	成績の 評価方法・基準	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
テキスト	『博物館概論』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集,地域創成学科報告集第1～5集		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
位置付け・水準	資格科目の基本科目である。資格取得の学生は、関連科目との関係から十分な理解が必要である。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	博物館施設見学をレポート課題としている。博物館に対する自主的な興味だけでなく、見学が授業理解には必要である。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として研究室が保管する考古資料の貸し出し業務を行った。奥松島縄文村歴史資料館学芸員として歴史資料館立ち上げの過程に携わり、常設展製作、映像資料の製作を行った。オープン後は企画展・体験学習の実施、博物館経営、発掘調査による資料収集を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は地域創成学科卒業選択共通専門科目であると同時に、学芸員資格課程の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。	授業内容を整理し、レポートで用いる見学したい博物館を博物館・美術館ホームページなどで検索する。	30
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の法的位置づけを説明する。	授業内容を整理し、見学したい博物館の事前調査を行い、その博物館の使命や概要をまとめておく。博物館の見学を行う。	30
3	2：続・博物館とは何か	博物館について、博物館法をもとに説明する。法規はシラバスに掲載されているホームページを開き、ダウンロードしておく必要がある。	授業内容を整理し、授業で取り上げた教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－を出力し、ノートに加えておく。	30
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。	授業内容を整理し、見学した博物館について概要、展示内容、注目した点などを箇条書きにまとめておく。	30
5	4：博物館学芸員の役割（1）	博物館法、公立博物館の条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。	授業内容を整理し、レポートを作成してみる。	30
6	5：博物館学芸員の役割（2）	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。	授業内容を整理し、レポートを推敲し、不足部分を補う。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	6：博物館の歴史（1）	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。博物館前史の説明を行う。近代博物館成立以前に博物的機能をもった様々な施設を紹介する。	授業内容を整理し、レポートを完成させる。	30
8	7：博物館の歴史（2）	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する	30
9	8：博物館の歴史（3）	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。文化財保護法を出力し、ノートに加える。	30
13	12：博物館の現状と課題（1）	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。	授業内容を整理し、指定管理者制度についてネットでしらべてみる。	30
14	13：博物館の現状と課題（2）	博物館の位置づけは時代によって異なる。博物館法が成立した1950年代と現代では社会環境が大きく異なっている。今博物館は何を求められ、博物館は何ができるのかを考え、これからの博物館について、望ましい姿を模索する。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で多くの博物館は被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30

授業名	デザイン論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	近代デザインの歴史を概観し、デザインが社会とどのような関わりを持って発展してきたのかについて理解を深める。併せて、制作プロセスや造形、経済などの視点からデザインについて学び、広い視野をもってデザインを考える力を培う。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、コミュニケーション手法としてのデザインについて実例とともに説明する。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：各回でミニッツペーパーを配布する。興味・関心や疑問点、理解度について確認を行いフィードバックする。 ・位置づけ・水準 CD2165		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①近代デザイン史の概要を理解している。 ②コンセプトと造形を関連付けてデザインを考えることができる。 ③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①授業への態度・意欲（20%）②授業内容の理解度（30%）③レポート（50%）
テキスト	適宜、配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。	シラバスの内容を確認する。	60
2	デザインの歴史①	アール・ヌーヴォーに代表される19世紀末から20世紀初頭のデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
3	デザインの歴史②	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
4	デザインの歴史③	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
5	デザインの歴史④	第2次世界大戦後から現代までのデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
6	視覚と認知	視覚と認知の仕組みについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
7	色彩について①	色と光、色彩知覚の仕組み、色彩と心理について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
8	色彩について②	色の分類、配色について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
9	タイポグラフィについて①	書体の歴史と分類について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
10	タイポグラフィについて②	タイポグラフィについて、視認性と可読性、レイアウトとの関係から講義を行う。簡易な文字組の練習を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
11	タイポグラフィについて③	タイポグラフィの視覚的な効果について、作品事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
12	レイアウトについて①	レイアウトについて視覚的なバランスと統一感、ユーザビリティ、視線誘導の観点から事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	レイアウトについて②	レイアウトについて視覚的な階層構造、ブランディングの観点から事例とともに講義を行なう。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
14	デザインのプロセス①	デザインのプロセスについて、アイデア創出とコンセプトの策定について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
15	デザインのプロセス②	マーケティングの観点からデザインのプロセスについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60

授業名	情報概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	コンピュータや情報通信技術の基本原理を学び、実際のハードウェア構成、ソフトウェアの種類や機能を理解すると共にコンピュータをネットワークで接続したインターネットの日常生活やビジネスでの活用とそれを支える基本技術について学ぶ。さらに、ネット社会が抱える問題とその解決法について考える。また、今後、学習していく情報関連の授業が理解できるようにする。 フィードバック方法：最終授業で授業内容を振り返り、試験のポイントを解説する。e-learningの実施状況については随時フィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 情報処理の基本である情報の単位が説明でき、2進16進の計算ができること。 2. パソコンの動作の仕組みが説明できること。 3. ネットワークの仕組みを理解すること。 4. 情報セキュリティと情報モラルについて基本的な事項を理解すること。 ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 超スマート社会の様々な課題を論理的に捉え問題を解決していく力を身につけるために、ICTの専門的知識の基礎を修得する。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
履修条件	なし	成績の	e-learningの学習成果：30%、mocaを使ったオンライン試験：70%
テキスト	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」NOA出版 IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html		
参考書	パソコン検定 3級試験対策本、ITパスポート試験対策本全般		
学生への要望	馴染みの無い言葉が沢山出てくるが、教科書をよく読み分らない言葉はインターネットで調べる等して学習する習慣をつけてください。		
位置付け・水準	CD2131		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）☑		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義内容を説明する。コンピュータ上で扱う情報について表現方法や演算の方法について学ぶ。 用語：2進法、16進法、文字コード	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史やコンピュータの種類、パソコンの形や取扱いの注意について学ぶ。 用語：ノイマン型コンピュータ、PS/AT互換機、ハードウェア、ソフトウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ハードウェア 1	パソコン本体の内部がどのような部品で構成されているか確認し、それぞれの役割や性能について学習する。 用語：CPU、メインメモリー、RAM/ROM	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ハードウェア 2	外部記憶装置および代表的な出力装置の動作原理や種類、性能の見方について学ぶ。 用語：ハードディスク、リムーバブルディスク、CRT、液晶、ラスターデータとベクタデータ	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	ハードウェア 3	入力装置の種類とその動作原理について学ぶ。また、周辺装置を接続するインターフェースについて学ぶ。 用語：キーボード、マウス、スキャナー、シリアル転送、パラレル転送、IEEE1394、USB	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	基本ソフトウェア	OSの役割と種類を学習し、現在の主流となっているWindowsの特徴について学ぶ。 用語：ディスク管理、レジストリ、ファイルシステム、拡張子	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	アプリケーションソフトウェア	オフィス処理関係ソフトの種類と機能を学習するほかにデータベースソフトやプログラミングについて学ぶ。 用語：テキストエディタ、DTPソフト、テーブル、レコード、フィールド、SQL、プログラミング	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
8	情報通信ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークの代表的な形態について学び、それぞれの違いについて確認する。 用語：LAN、WAN、OSI、クライアント、サーバー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
9	LANの構成	LANの規格、データ転送方式、LANのハードウェア、セキュリティについて学ぶ。 用語：イーサネット、無線LAN、ハブ、ルータ、ファイアウォール、暗号化	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	インターネットの仕組み	インターネットとは何かについて、歴史、しくみ、代表的サービスであるWWWの観点から学ぶ。 用語：ARPAnet、IPアドレス、ドメイン名、ISP	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
11	インターネット上のサービス	メールがどの様にして届くか学び正しく利用できる知識を得るとともにインターネット上の色々なサービスについて学ぶ。また、インターネットへの接続方法について説明できるようにする。用語：POP、SMTP、メーリングリスト、ADSL、FTTH	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
12	情報セキュリティ	セキュリティに関する正しい知識を持ち、適切な対策を講じることができるように学習する。 用語：コンピュータウィルス、ウィルス感染の予防、スパイウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
13	不正アクセスと詐欺の防止	不正アクセスとは何か及びそれを禁止している法律について学ぶとともに不正アクセスを防ぐ技術対策を理解し実施できるようにする。また 最も利用機会の多いブラウザのセキュリティ機能を有効に使用するため、設定方法を学び利用形態に合わせた設定ができるようにする。 用語：不正アクセス禁止法、セキュリティホール、ファイアウォール、Cookie、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	情報モラル及びフィードバック	情報社会の問題点と法律、自分を守るための方法について学ぶ。 試験のポイント及びe-Learning実施状況フィードバック 用語：知的財産権、個人情報、インターネット利用上のマナー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	最終テスト	授業中に、mocaを用いてオンラインの試験を実施する。 試験後に、問題の解説、フィードバックなどを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を復習し、疑問点等あれば整理しておく。	60

授業名	情報倫理	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけない、また犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。 フィードバック方法： 授業で提出されたレポートやe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1.ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。 2.ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 ①超スマート社会における多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力を身につけている。 ②ICTの専門的知識を活用し、論理的に課題を捉え問題を解決していく力を身につけている。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。			
履修条件	地域創成 2 年	成績の 評価方法・基準	レポート 1 回：10%、e-learningの学習成果：20%、mocaを使ったオンライン試験：70%	
テキスト	教科書は指定しない。 e-learningシステムmocaで資料配布。			
参考書	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版；IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html			
学生への要望	日頃からハイク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞し、関心を持つこと。			
位置付け・水準	CD2132			
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」			
オフィスタイム	月 3 限、火 3 限、木曜 1・2 限（芸術館 2 階 地域創成学科研究室No3）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerでのリスク管理統括や経営企画担当者の実務経歴を活かして、実践的な授業を行います。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。 e-Learningの活用について説明する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。<キーワード> 情報、倫理、サイバー犯罪	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。 <キーワード> ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワード設定する場面でクリックされにくい文字列で設定できるようにする。<キーワード> アカウント、パスワード、ユーザID、クッキー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたずらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマーを身につけるとともに、自己防衛のための知識を学ぶ。 <キーワード> メール、チェーンメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。 また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。 <キーワード> 検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。 <キーワード> ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	情報の流出とサイバー犯罪レポート 1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサーバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。 <キーワード> コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失 レポート課題：最近のサイバー犯罪について	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
9	ネットワーク社会と生活	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。 <キーワード> ISP、電子商取引、BtoB、B to C、GtoC、トレーニング、バンキング、オークション	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
10	「超スマート社会」とは	ネットワーク技術と情報技術を駆使した「超スマート社会」（Society 5.0）の実現が提唱されている。どのような社会を目指したいのかと実現する必要となるキーテクノロジーは何かについて学ぶ。 <キーワード> サイバーセキュリティ技術、IoTシステム構築技術、ビッグデータ解析技術、AI技術	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
11	「超スマート社会」の技術	「超スマート社会」を実現するために開発されている最新の技術について学習する。 <キーワード> 5G、AI、ロボット、AR、VR	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
12	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある。犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。 <キーワード> 情報の信頼性、ネットワーク犯罪の傾向、オークション詐欺、不正請求、サーバーテロ	e-Learningの該当箇所を実施	30
13	ネットワーク社会を取り巻く法律（全般、個人情報保護法）①	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ（個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法）。授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	ネットワーク社会を取り巻く法律（著作権法、その他）②	ビジネス社会や日常生活において密接に関係する著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。 また、法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る（不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法）。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	全体のまとめとフィードバック	提出されたレポート及びe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を振り返り、疑問点等あれば整理しておく	30

授業名	日本古代の歴史と文化	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	文献史学と考古学的な方法により書かれた通史である佐藤信編『古代史講義』『古代史講義<宮都編>』『古代史講義<戦乱編>』『古代史講義<氏族編>』をテキストにして、具体的な事例を補いながら授業を進める。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準：CS2202		
授業の到達目標	<到達目標>日本原始・古代史の最新の文献史学・考古学的成果の理解し、それについて説明ができるレベルにまで到達できること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題		
履修条件	考古学・古代史の基礎理解があること	成績の 評価方法・基準	授業への参加度を平常点とし、課題レポートを課す(平常点30%、レポート70%)。 授業の60%以上の理解が必要である。考古学で専攻科論文を作成する学生は80%以上の理解が必要である。
テキスト	佐藤信編『古代史講義』『古代史講義<宮都編>』『古代史講義<戦乱編>』『古代史講義<氏族編>』ちくま新書		
参考書	講義中に紹介する。		
学生への要望	授業の前に教科書を熟読し、わからない点などを確認し、ノートを作成すること。復習には授業時の内容をノートにまとめておくこと。		
位置付け・水準	古代史・考古学の知識の積み上げが必要です。		
ディプロマポリシーとの関係	発展的理解。		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	テキストを用いた授業で、事前学習が必要である。授業中に発表を求める場合がある。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	日本考古学・日本歴史学の時代区分	時代区分論は歴史観だけでなく、考古学の世界では新発見によって変化する。また、日本という枠組みの変化もある。日本列島の地域区分とその中の時代区分を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
2	邪馬台国から古墳の時代へ	魏志倭人伝を中心とした史料からみた邪馬台国	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
3	邪馬台国時代に相当する遺跡遺物	吉野ケ里遺跡・纏向遺跡など邪馬台国に相当する時代の遺跡を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
4	前期古墳	箸墓古墳、メスリ山古墳、桜井茶臼山古墳、古墳時代前期の集落	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
5	倭の大王と地方豪族	中国の文献に登場する倭の国、及び稻荷山古墳鉄剣銘、江田船山古墳鉄剣銘など数少ない文字資料から見える古墳時代を考える。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
6	中期・後期古墳大王墓と地方豪族の墓	畿内の大王墓と推定される古墳及び、それに準じる古墳の調査資料、そこから考古学者が考えた古墳時代像を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
7	蘇我氏とヤマト王権	古事記、日本書紀の記述から文献史学者が復元したヤマト王権について検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	飛鳥の古代遺跡と大津宮	奈良県明日香村を中心にした古代飛鳥（藤原京以前）の遺跡について、検討する。宮跡、終末期古墳、寺院跡など断片資料から考古学者がどのように研究を行っているかを見る。大津宮についても、明らかになったことを検討する。橿原考古学研究所の展示品を見ながら、検討したい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
9	飛鳥・藤原の時代と東アジア	ヤマト王権が畿内政権として成立する過程を東アジアの視点から見るといふ考え方を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
10	藤原京	始めて作られた条坊制の都城藤原京の発掘成果を見る。飛鳥資料館の展示を見ながら検討したい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
11	藤原京の寺院遺跡	藤原京内内には薬師寺、大官大寺などの寺院が作られている。同時代の寺院及び関連遺跡を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
12	平城京の実像	文献研究から明らかにされた平城京の造営課程、都市に伴う付帯施設などがどのような形で作られていったのか、基本文献の「続日本紀」がどのようなものかなどにも触れながら、文献研究で明らかになった平城京を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
13	平城宮・難波宮・恭仁京・紫香楽宮	考古学的調査により、平城京、難波宮、恭仁京、紫香楽宮がある。明らかになった考古学的事実を検証する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
14	平城京内の邸宅・施設	平城京城の調査は奈良文化財研究所の計画的な調査だけでなく、行政発掘の成果もある。それらの成果を見てみたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
15	平城京内の寺院遺跡	平城京内の寺院は現在も機能している唐招提寺や薬師寺、興福寺、元興寺そして東大寺がある。しかしそれらの寺院が奈良時代の建物が残っているものは唐招提寺・薬師寺東塔等だけである。発掘調査によって明らかになった奈良時代の寺院をみってみる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
16	奈良時代の騒乱	奈良時代の政治史である。このようなテーマは文献に記された記録をもとに知る以外にない。どのような文献の記述から政治的騒乱があったのかを読み解く方法をみてみたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
17	長屋王邸宅と木簡	長屋王の変で失脚した左大臣長屋王の邸宅の発掘成果から、長屋王邸宅の遺構、木簡、遺物から文献に記された事象と考古学的事実と対比して検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
18	地方官衙と地方豪族	テキストでは考古資料を用いて地方官衙と地方豪族について述べている。文献研究が難しいことがよくわかる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
19	多賀城と陸奥・出羽の城柵遺跡と附属寺院	時代は遡るが、仙台長町郡山遺跡から話は始まる。東北地方の国府は多賀城と秋田城である。古代出羽と陸奥は国境線の国であった。蝦夷との不明確な国境線には他の古代の国々とは異なる、城柵がある。東北地方ならではの城柵遺跡を発掘調査成果からみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	陸奥国の郡衙	国の下部組織に郡がある。福島県内では二本松郡山遺跡、清水台遺跡など郡衙や駅に相当する可能性がある遺跡が発掘されている。遺跡と郡衙を繋げる研究を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
21	遣唐使と天平文化	続日本紀と中国の記録などから、遣唐使の活動を記述している。まずはその記述内容を学ぶ。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
22	東大寺・正倉院研究	東大寺と正倉院には1500年の歴史が詰まっている。国家珍宝長に記載されている資料の同定作業から始まり、伝世資料の研究がある。さらに、世界の宝正倉院の資料保存の問題など、物質資料研究法を学ぶ。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
23	平安遷都と対蝦夷政策	桓武天皇即位までの天皇血統問題。考古資料では知ることのできない天皇の血筋問題。それが政治にどのように藩営しているのかを文献研究成果を見てゆく。さらに、蝦夷問題が中央でどのように見られていたのかを理解する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
24	長岡京・平安京と寺院	考古学的研究成果は行政発掘で明らかにされるが、千年の都には千年の歴史が重層している。京都府埋蔵文化財研究センターの仕事から学びたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
25	平安時代の多賀城・城柵	蝦夷政策の最前線の考古学的成果をみてゆきたい。多賀城、秋田城、城輪柵、弘田柵、伊治城、東山遺跡、城生柵、桃生城、玉造柵、色麻柵など多数ある。さらに北進した陸奥国府は胆沢城、徳丹城、紫波城である。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
26	平安時代の陸奥国生産遺跡ー鉄・須恵器・瓦・塩ーと寺院	鉄生産は福島県相馬市一帯に広がる製鉄遺跡群横大道製鉄遺跡などである。須恵器・瓦窯は多賀城関連の台原窯跡、日出山瓦窯、木戸瓦窯などである。製塩遺跡は松島湾沿岸の製塩遺跡が挙げられる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
27	平安京の成熟と都市王権の展開・摂関政治の実像	平安時代を特徴づける貴族政治を文献史学の研究成果から理解を深めたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
28	国風文化と唐物の世界・受領と地方社会	平安時代の王朝文化を彩る国風文化とそれを支えた地方経済について、文献資料成果を見てゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
29	平安時代の集落：笹山原遺跡	郡山女子大学短期大学部で20年間発掘して見えてきた土師器生産集落の姿を、文献史学の成果を学んだあとで、考古学の成果をみて、そのギャップを知ってもらう。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
30	平将門・藤原純友の乱の再検討、平泉と奥州藤原氏	古代の終末について、文献史学研究成果を学ぶ。時間があれば、世界遺産となった奥州平泉の発掘成果を見てゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

授業名	考古学特論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎會田 容弘			
開講期				
授業の概要	史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実際を学ぶ。考古資料の基本的な操作方法を理解することが目標である。会津若松市笹山原遺跡16の発掘調査実習を通して発掘方法を理解する。次に出土資料の資料化の過程を理解する。課題に対するレポートはデータおよび版下図として提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2104			
授業の到達目標	<到達目標>発掘調査で出土した資料を考古学研究の資料として利用できるまで整理できる能力を身に着けるレベルまで到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	考古学の基本理解があること	成績の 評価方法・基準	レポートと授業への主体的参加度を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。考古学論文を作成する学生は80%以上の理解を求める。	
テキスト	『発掘調査のてびき』			
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集 地域創成学科報告集第1～5集			
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。この授業は実習作業が中心になる。資料を配布するので事前にそれを読み、確認しておくことが予習である。授業後、授業内容をノートに作成し復習すること。特に実測図の作成は授業時間で完成できない場合はあき時間に完成させること。			
位置付け・水準	文化財調査の専門職を目指す場合、必要な知識と経験が得られます。			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題			
オフィスタイム	水曜日が授業が少ないので考古学実習室にいます。			
アクティブラーニング実施内容	発掘調査・整理作業などの実習を含む授業である。自主的な参加が必要である。			
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	笹山原遺跡16の調査経過	会津若松市笹山原遺跡16のこれまでの発掘調査の経過を説明する。	過去の発掘調査の理解。	60
2	笹山原遺跡16の調査方法	笹山原遺跡16の発掘調査方法について説明を行い、実際に調査を行う準備を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	笹山原遺跡群の研究成果	これまでの笹山原遺跡群の調査成果をまとめ、その意義と今後の課題について検討する。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
5	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
6	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
7	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
8	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
9	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
10	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
11	発掘調査実習（8）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	発掘調査実習（9）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
13	発掘調査実習（10）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
14	発掘調査実習（11）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
15	発掘調査実習（12）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
16	石器実測の方法	石の割れの原理を説明し、石器の実測方法について説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	石器実測（1）	実験で製作した剥片の実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	石器実測（2）	笹山原No.16遺跡から出土した後期旧石器を資料として実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	石器実測（3）	笹山原No.16遺跡から出土した石核を用いて実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	石器実測（4）	笹山原No.16遺跡から出土した石器を用いて、実測を行う。	完成した石器実測図をレポートとして提出する。	60
21	接合資料の理解	笹山原No.16遺跡から出土した石器の中に、接合資料が含まれている。この接合資料を用いて、笹山原No.16遺跡で行われた、石器製作技術理解の方法を述べる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器属性分析の方法	石器を記述するために属性を抽出し、記述する。その方法を学ぶ。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	石器属性計測実習	石器の属性を実際に計測し、抽出する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	石器属性分析の実際	抽出した属性をEXCELに入力し、属性分析を行う。	授業で行った属性分析結果をExcelに入力し、グラフに出力し、提出する。	60
25	石器写真撮影	笹山原No.16遺跡出土の石器の写真撮影実習。	授業で撮影した写真をフォトショップとイラストレーターを用いてレイアウトし、データを提出する。	60
26	報告書製作1	実測図のトレース、分布図の作成、属性表、調査内容の記述などの説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	報告書製作2	実測した石器のトレースを行い、版下のレイアウトを行う。	トレースした図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
28	報告書製作3	分布図を作成し、石器の出土位置を合成する。母岩別分布図を作成する。それらをトレースし、版下を作成する。	遺構図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
29	報告書製作4	遺構実測図の合成し、トレースを行い、遺構図面の版下を作成する。	分布図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
30	報告書製作5	報告書の体裁及び章立てなどの説明を行い、文章を実際に書いてみる。	遺物、分布、遺構の記述を行い、レポートとして提出する。	60

授業名	日本の考古学	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎會田 容弘			
開講期				
授業の概要	東北大学では中沢目貝塚の発掘と報告、奥松島縄文村歴史資料館では里浜貝塚の発掘調査と報告書作成をおこなってきた。その経験と研究成果を用いて、先史時代における考古資料を用いた人間の動作連鎖の復元研究の方法を提示する。具体的な研究例として宮城県東松島市里浜貝塚の調査成果を用いる。里浜貝塚からは石、粘土、鹿角などの様々な素材を用いた物質資料が出土している。資料の観察だけでなく、製作実験を行うことで、資料の技術的理解を深めることができる。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2105			
授業の到達目標	<到達目標>貝塚出土資料分析の過程を理解し、実践的な調査を行うに十分な知識をもつレベルに到達すること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。			
履修条件	考古学の基本理解があること	成績の 評価方法・基準	レポートと授業への主体的参加度を加味して評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とするが、考古学で論文を作成する学生には80%以上の授業理解を求める。	
テキスト	授業中に紹介する			
参考書	里浜貝塚Ⅰ～Ⅸ 東北歴史博物館 里浜貝塚－平成9～12年度発掘調査概報－『松島湾の縄文カレンダー 里浜貝塚』『展望 考古学動作連鎖研究の社会的効用－遺跡博物館での活用法－』『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35(2018.3)『縄文土器の動作連鎖－笹山原遺跡No.16の資料分析を通して－』『福島考古』第59号pp.1-14 (柿沼梨沙と共著) (2017.11.20)			
学生への要望	参考書を読み、予習・復習を行い授業に参加すること。ノートをまとめておくこと。授業で用いたパワーポイントは「めばえ」で公開するので、復習に用いること。			
位置付け・水準	文化財調査員を目指す学生には必修の知識である。専門職を目指すのであれば、より深い理解を求める。			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：専門的知識・研究能力			
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。			
アクティブラーニング実施内容	講義形式ではあるが、実際の遺跡調査の実例を取り上げる。受講学生とは対話型で授業を進めるので、考えながら参加してほしい。			
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	里浜貝塚の位置と環境	里浜貝塚の位置と環境、周辺遺跡について。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
2	里浜貝塚研究史	里浜貝塚の研究の歴史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
3	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚里・西畑・寺下囲地点の調査結果	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
4	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚台囲地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
5	里浜貝塚の発掘（3）	里浜貝塚畑中・梨木地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
6	里浜環境史	泥炭層の植物遺体、花粉化石の分析による周辺環境の変遷史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
7	縄文時代の前期・中期の里浜	縄文時代の前期・中期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
8	縄文時代後期の里浜	縄文時代後期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
9	縄文時代晩期、弥生時代の里浜貝塚	縄文時代晩期、弥生時代初等の集落、墓城、貝塚、製塩炉、浜辺の利用のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
10	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(1)	漁労活動。猟具と対象魚。採集対象魚。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(2)	狩猟対象鳥獣と狩猟具。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
12	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(3)	採集対象植物と植物加工具	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
13	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(4)	漁労具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
14	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(5)	狩猟具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
15	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(6)	植物加工具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
16	里浜貝塚の発掘 (1)	里浜貝塚の平成8年度の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
17	里浜貝塚の発掘 (2)	里浜貝塚平成9年の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
18	里浜貝塚の発掘(3)	里浜貝塚の平成10年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
19	里浜貝塚の発掘 (4)	里浜貝塚の平成11年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
20	里浜人の土器作り (1)	里浜貝塚出土の土器を観察し、その作り方、文様施文方法などを動作連鎖に基づいた仮説を作る。	仮説をレポートにして提出する。	60
21	里浜人の土器作り (2)	仮説に基づいた土器製作実験計画を立てる。	仮説を発表し、議論する。	60
22	里浜人の土器作り (3)	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
23	里浜人の土器作り (4)	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
24	里浜人の土器作り (5)	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
25	里浜人の石器作り (1)	石器石材の検討を行う。	縄文人の石器石材について笹山山原遺跡と比較してみる。	60
26	里浜人の石器作り (2)	石の割れの基本的理解。実験的に製作した石器を観察し、割れ面の理解を深める。	実験製作品を観察し、記述する。	60
27	里浜人の石器作り (3)	石器製作における加撃法、加撃具と残された痕跡の比較を行う。	加撃法・加撃具の明らかな実験石器と里浜貝塚出土遺物との比較を行い、レポートにする。	60
28	里浜人の石器作り (4)	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物 (2)	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
29	里浜人の石器作り (5)	実際に実験的に石器を製作してみる。	自分で作った石器について、記述してみる。	60
30	里浜人のモノづくりのまとめ	モノづくりの理解と動作連鎖の考え方を説明する。	実験研究をまとめ、何が理解できたかをまとめて提出する。	60

授業名	考古学演習	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	考古資料を用いた実際的な研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。発掘調査に参加し、出土した資料整理を通し、実際の考古資料を扱いその観察方法、記述方法を学び、実践する。さらに、実物資料認識の方法、その資料の関連研究を中心にまとめ、発表をおこない、学生同士の討論を行い、学習を深めて行くのが目標である。 本学では2001年以来会津若松市湊町大字赤井字笹山原に位置する笹山原遺跡No. 16の発掘調査を継続して行っている。笹山原遺跡No. 16は平安時代、縄文時代前期、後期旧石器時代の複合遺跡でそこから出土した資料を用いて、実践的な演習を行う。 発掘資料の整理、データ整理、記録法、写真撮影などの実践を踏まえて、資料に対する認識力を深め、論文読解を経て、学術的議論ができるような訓練を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2209		
授業の到達目標	<到達目標>考古資料の理解を経て、考古資料の考古学的基礎に基づいた記述が可能なレベルにまで到達できること。 考古学の学術論文を読み、批判的に検討できるレベルに到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	考古学の十分な理解があること	成績の 評価方法・基準	レポート及び発表内容(レポート70%、発表30%)で60点以上の理解度で、合とする。考古学で論文を作成する学生は80点以上の理解度を求める。
テキスト	イニザン他『石器研究入門』 山中一郎「考古学における方法の問題」		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集 地域創成学科報告集第1～5集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。発表と議論が中心になるので事前の準備を十分行うこと。事前準備が予習にあたる。発表内容への指摘点、修正指導点は復習としておこなってほしい。		
位置付け・水準	専門職を目指す学生の最終段階である。考えながら、行動してほしい。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究課題と論理的・創造的		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	発掘調査、整理作業は自主性が重んじられる。自分がやらなければ、全体が進まない。最上級学年なので、後輩の指導も求められる。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学演習の説明	演習の進め方についての説明。	過去の発掘調査の理解。	60
2	発掘調査準備（1）	笹山原遺跡No. 16の発掘調査を行うにあたっての基本的な準備を行う。機材の確認、機材の操作方法の確認、発掘調査過程の確認を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	発掘調査準備（2）	発掘調査に用いる図面、遺物カード、手引きなどの製作を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
5	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
6	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
7	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
8	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
9	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
10	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
12	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
13	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
14	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
15	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（１）	実際に出土した笹山原遺跡No. 16の石器遺物の全体を観察する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
16	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（２）	石材分類。笹山原遺跡No. 16から出土する石器遺物は様々な石材が用いられている。石材を理解し、その石材別の分類を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（３）	母岩分類。同一の石材であっても、異なる母岩から製作されている。中には同一母岩から剥離された石器が存在することがある。それらを認識し分類する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（４）	同一母岩に分類したものの中で、遺跡の中で剥片剥離行為がなされた場合、まれに接合する場合がある。それを捜し求める作業を行う。全部のピースがそろっていない立体ジグソーパズルである。接合する資料が確認された場合、それはその石器が持ち運ばれたか、石器製作中に飛び散ったかなどという具体的に石器時代人の行為を実証することができる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（５）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	笹山原遺跡No.16の石器遺物観察（６）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
21	石器の記録（１）	石器の記録方法として実測と写真撮影がある。その基本を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器の記録（２）	写真撮影と実測を実際に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	土師器の写真撮影	土師器の記録方法として写真撮影を行う。デジタルカメラを用いて、ライティングを調節しながら行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	土師器の観察（１）	土師器の破片資料の観察を行う。観察表の作成を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
25	土師器の観察（２）	土師器の観察表を作成し、集計を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
26	土師器の実験考古学	粘土を用いて土師器を実験的に製作する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	縄文土器の理解	笹山原遺跡No. 16から出土した縄文土器破片を観察し、との特徴を調べる。胎土、文様、器形、調整などの要素の見かたについて説明し、実際の遺物解説の発表を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
28	縄文土器の記録	縄文土器の記録方法として、拓本をとる。拓本の技術は既に修得しているので、実際に笹山原No. 16遺跡出土の縄文土器を採拓し、前回の観察内容を記述し、発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
29	縄文時代の石器理解	縄文時代の石器を検討する。笹山原No. 16遺跡から出土した縄文時代の石器を取り上げ、その石材、製作技術の特徴についてそれぞれ発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
30	縄文時代の石器の記録	石器を理解したうえで、写真撮影、実測を行う。撮影方法、実測方法については、博物館実習、日本の考古学で修得していることを前提に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60

授業名	保育課程特論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎賀門 康博 奥 美代		
開講期			
授業の概要	この授業では、基本的は理論をもとにしてつ、実際の保育現場におけるカリキュラムマネジメントの在り方について学修していく。教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）と示されている点からも、園の組織と共に保育者自身が教育課程を編成していく事が重要であり、授業を通してその力を身につけていく。 実務経験（賀門康博）：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 〃（奥美代）：幼稚園教諭（現在は副園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準 ES2104		
授業の到達目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「問題発見・解決力」と「キャリア形成力」に対応している。 乳幼児の発達や興味・感心、その背後にある社会環境や生活の流れへの理解を深めながら、子ども達が充実感を持って活動出来る保育課程(カリキュラム)作成への理解を深めつつ、実践事例とその考察を行って、実践力を高めていく。保育課程への考察、作成などの学習を通じ、発達の連続性や保育者としての役割・責務を把握していく。 ①保育におけるマネジメントの意味とその意義について理解できたか。 ②カリキュラムマネジメントにおけるPDCAの意味とその意義について理解できたか。 ③実践例などを元に、保育の各場面におけるカリキュラムマネジメントの実践について理解が深まったか。 単位認定の最低基準：「内容の7割を理解していること」		
履修条件	原則として、幼稚園教諭一種免許状取得希望者	成績の 評価方法・基準	授業参加度30％ 試験70％
テキスト	なし(適宜資料配付)		
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ・池田幸代、田中謙編著『マネジメントする保育・教育カリキュラム』（教育情報出版） ・松本峰雄監修、浅川蒔子他著『保育の計画と評価 演習ブック』（ミネルヴァ書房）		
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 保育における「乳幼児の発達」と「ねらい・方法」の関係を意識し、授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（本授業の概要等について）	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。 また、保育課程を考える時に重要な「乳幼児の発達」と「興味・関心」「社会環境」について、保育現場としての基本的な考え方について知る。	これまでの学修内容やニュースなどから、現代の保育を取り巻く環境や問題について考えておく。	30
2	社会状況との関係から考える保育3法令の変遷の歴史について	保育3法令の意味について改めて確認するとともに、その背景にある社会的な意義や目的について知り、自分なりに考えてみる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	30
3	乳幼児期における「生きる力」と育みたい資質・能力について	前回の授業内容等を元にししながら、現代を生きる子ども達にとって必要な資質を知り、その重要性について考察をしていく。	「認知能力」「非認知能力」「10の姿」というキーワードの意味について改めて復習し、それぞれの実践場面についてイメージする。	30
4	保育における「カリキュラム」の考え方について	保育現場におけるカリキュラムの位置づけを知り、子ども達に寄り添った保育の在り方について考える。	保育実践とカリキュラムの位置づけについて、これまでの学修内容を振り返り概観しておく。	30
5	保育における「カリキュラムマネジメント」の意義とその範囲について	カリキュラムマネジメントについての見方やポイントや、マネジメントにおいて重要な振り返りや省察の技法などについて知る。	これまでの自らの実習経験を振り返り、客観的に保育を振り返る姿勢や視点を概観する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	P D C A サイクルに基づくカリキュラムマネジメントとは	カリキュラムマネジメントを行う考え方の一つである P D C A を理解するとともに、その活用の仕方について学ぶ。	PDCAという技法について予め調べるとともに、保育におけるPDCAの意義を考える。	30
7	保育の記録と省察（１） ～保育における様々な記録とその意味～	保育計画において根本となる子どもの読み取りについて、その基礎となる記録の仕方とその意味について改めて確認するとともに実践的な演習を行う。	保育実践における省察に活用できる記録とは何かについて、これまでの学修内容等から概観する。	30
8	保育の記録と省察（２） ～記録からの省察について～	前回の授業を元に、記録から指導計画に繋がる子どもの姿の読み取りについて演習を行い、振り返り(省察)の考え方について学ぶ。	前回の授業内容について復習を行うとともに、省察に活かせる記録の要素などについて考える。	30
9	幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（１）	これまでの保育計画や教育課程についての学びから、保育場面におけるカリキュラムマネジメントの実例を元にその意味について検討を行う。（主に0～2歳）	0～2歳児の保育内容について、自らの実習などの経験を想起し、振り返りを行う。	30
10	幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（２）	これまでの保育計画や教育課程についての学びから、保育場面におけるカリキュラムマネジメントの実例を元にその意味について検討を行う。（主に3～5歳）	3～5歳児の保育内容について、自らの実習などの経験を想起し、振り返りを行う。	30
11	特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（１）	支援が必要な子やグレーゾーンの子について、現場での合理的な配慮やカリキュラムマネジメントの意味を知り、実践例などから考察を行う。	「支援が必要な子」と「グレーゾーンの子」の違いについてこれまでの学修内容等を振り返る。	30
12	特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（２）	支援が必要な子やグレーゾーンの子について、園全体として取り組むマネジメントの仕方について学び、実践例などから考察を行う。	先の授業内容を元にしつつ、園の教育・保育課程とクラスのカリキュラムについてどう連動させていく事が出来るかについて想起する。	30
13	保護者との連携をマネジメントする意味とその方法について	子ども達の背後にある家庭の状況を知り、保護者との連携の仕方や家庭支援の仕方を知り、事例などから保育としてどう取り組んでいけるかについて考察を行う。	現代の家庭を取り囲む課題について、ニュースなどから情報を集め、自分なりに必要な課題を考えてみる。	30
14	地域、関係機関との連携や接続に関するマネジメントについて	園を取り巻く社会資源について知り、各専門機関や社会環境との連携の仕方や活用の仕方について学ぶ。	これまでの学修内容や各情報などから保育に関連する機関は何かがあるかを考え、その関連性について概観する。	30
15	まとめ	これまで授業で学んできたことを、トータル的に振り返り、保育課程の役割やマネジメントする意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、これまでの保育課程に関する視点を再確認する。	30

授業名	臨床心理学	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対し、心理学の観点から、問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探索する学問です。従来の臨床心理学の基本となる考え方の他に、昨今の家族構造の変化を鑑み、親子関係や家族関係に焦点を当てて取り扱われる問題を幅広く紹介します。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・臨床心理学がどのような学問か説明できる。 ・家族や子どもに対する心理的関わりにはどんなものがあるか概略を説明できる。		
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	ディスカッションへの積極的参加（50％）、授業内課題やレポート提出（50％）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2108		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「専門的学識」「社会貢献力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職（臨床心理士・公認心理師）として実務経験のある教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	臨床心理学とはなにか	・ 幼児理解と臨床心理学の関係について説明する ・ 幼児画のワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	臨床心理学の歴史・考え方・立ち位置	・ 臨床心理学の歴史の大枠を説明する ・ 教育学との違いを体験するグループワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	臨床心理学的アプローチ	・ 子ども領域の臨床心理学について説明する ・ 発達の問題を抱えた子どもの事例を通して、臨床心理学的アプローチを説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	心理アセスメントについて	・ 子どもの行動をより深く理解する必要性・方法について説明する ・ 発達の問題を抱えた子どもの事例を通して、心理アセスメントや福祉支援を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	カウンセリングマインドについて	・ 子どものところに寄り添うことの必要性や方法について説明する ・ 発達の問題を抱えた子どもの事例を通して、カウンセリングマインドを説明する ・ 幼児画のワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	臨床心理学の世界 1	・ 重度心身障害の親子の事例や心理について説明する ・ 臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	臨床心理学の世界 2	・ 虐待された子どもの事例や心理ケアについて説明する ・ 臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	臨床心理学の世界 3	・ 不登校・引きこもりの子どもの事例や心理ケアについて説明する ・ 臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	臨床心理学の世界 4	・ 薬物依存・摂食障害の子どもの事例や心理ケアについて説明する ・ 臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	臨床心理学の世界 5	・ 性非行・望まぬ妊娠などの事例や心理ケアについて説明する ・ 臨床心理学的理解と対応についてディスカッションする	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	心理療法 1	・心理療法についての概説 ・幼児画を使った夢分析のワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	心理療法 2	・認知行動療法の理論の説明 ・日記から体験する認知行動療法のワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	心理療法 3	・コラージュ療法についての説明 ・グループでのコラージュ作成ワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	心理療法 4	・内観療法について説明 ・ナラティブセラピーについて説明 ・語ることで変容する世界を体験するワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	現代社会と臨床心理学	・昨今の社会情勢と、地域の医療・福祉・心理等の専門機関の機能、連携の必要性と具体的方法を説明する ・幼児画のワークのまとめ	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	臨床心理学演習	配当年度 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 必修
担当教員名	◎宇治 和子		
開講期			
授業の概要	臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対し、心理学の観点から、問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探索する学問です。臨床心理学の基本に基づいた人に対するかまえ、相談の受け方（接近の方法）、心理アセスメントの方法などを体験的に学び、科学的視点をもちつつ寄り添いながら支援していくことについての考察を深めます。各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・相談支援を行う際の臨床心理学的対人接近の方法について、理解し実践できる。 ・心理アセスメントについて理解し、その知識を支援に活かすことができる。		
履修条件	幼児教育学専攻科1年	成績の 評価方法・基準	ロールプレイやディスカッションへの取り組み、積極的な授業参加（50％）、授業内課題やレポート提出（50％）により評価します。
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
位置付け・水準	ES2109		
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本専攻科DPの「問題発見・解決力」「キャリア形成力」に関連しています。		
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。		
アクティブラーニング実施内容	ロールプレイなど		
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職（臨床心理士・公認心理師）として実務経験のある教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	臨床心理学のかまえ	・カウンセリングの理論について説明する ・カウンセリングマインドについて考えるワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	臨床心理学のかまえ・接近の方法	・相談者の話を聞く姿勢と技法の説明 ・聞き方について考えるワーク	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	接近の方法	・子どもが出す様々なサインについて説明する ・ロールプレイを行って気持ちを推測する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	心理アセスメントについて	・心理アセスメントについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	心理アセスメント実習1	・発達検査の種類について説明 ・グッドイナフ人物画知能検査（DAM）の実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	心理アセスメント実習2	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	心理アセスメント実習3	・DAM+遠城寺式のロールプレイ実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	心理アセスメント実践実習（前半）	・園に協力してもらい実際の子どもでの実践実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	心理アセスメント実践実習（前半）	・検査結果の分析・解釈のまとめ ・フィードバックの説明	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	心理アセスメント実習4	・HTPP検査の実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	心理アセスメント実習5	・新版K式発達検査の実習1	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	心理アセスメント実習6	・新版K式発達検査の実習2	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	心理アセスメント実習7	・HTPP+新版K式発達検査のロールプレイ実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	心理アセスメント実践実習（後半）	・園に協力してもらい実際の子どもでの実践実習	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	心理アセスメント実践実習（後半）	・検査結果の分析・解釈のまとめ ・フィードバックのロールプレイ	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	特別支援教育の理論と実践	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小林 徹		
開講期	後期		
授業の概要	本授業では、まず特別支援教育の制度や教育課程の枠組み等を学習し、障がいのある幼児の就学後の学びについて理解する。その上で、幼児期に育みたい資質・能力等を考慮した個別の指導計画を作成し、特別な配慮を要する子どもを理解する視点や、その障がい特性及び発達の段階等を踏まえた指導のあり方を学習する。また、個に応じた教材の作成、障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための活動計画を通して、実践的な技術を身につける。毎回授業後に提出する小レポートや各課題については、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 特別支援教育の制度や教育課程の枠組みについて理解する。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別の指導計画について、その意義や作成方法を理解する。 3. 障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法を理解する。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割が理解できていること。		
履修条件	専攻科幼児教育学専攻の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点20点（コメントシート、受講姿勢）、 課題50点（教材、表現活動）、期末試験30点
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障がい児保育と特別支援教育』みらい, 2020 文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017		
参考書	授業時に紹介		
学生への要望	グループワークや発表の際など、積極的に意見交換し、クラスメイトから学ぶ姿勢を大切にしてください。		
位置付け・水準	ES2219		
ディプロマポリシーとの関係	専門的学識、社会貢献力		
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）☒		
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション他		
実務家教員の経歴	【小林】中学校特別支援学級担任教諭としての指導、市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験が豊富である。☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 特別支援教育の現状 [小林・佐藤]	授業計画や成績評価方法、オフィスタイム等を確認する。 特別支援学校幼稚園設置校数など、特別支援教育の現状を概観する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史・制度 [佐藤・小林]	特別支援教育の歴史的変遷について概観し、連続性のある多様な学びの場など、現在の特別支援教育の制度について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	障がいのある子どもの理解① [佐藤・小林]	発達障がいのある子どもの心理的特性や生活上の困難について復習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	障がいのある子どもの理解② [佐藤・小林]	視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある子どもの生活上の困難について復習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	特別支援学校幼稚園における教育の目標 [佐藤・小林]	特別支援学校幼稚園における教育の目標や、育みたい資質・能力等について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	特別支援教育の教育課程編成 [佐藤・小林]	特別支援教育における教育課程の枠組み及び教育課程編成の考え方について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	自立活動 [佐藤・小林]	自立活動の教育上の位置づけと内容について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	個別の指導計画① [佐藤・小林]	個別の指導計画作成の意義と方法について理解し、指導計画作成のための幼児の実態評価について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	個別の指導計画② [佐藤・小林]	障がいのある幼児の事例をもとに、個別の指導計画を作成する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	個に応じた教材① [佐藤・小林]	障がいのある幼児の事例をもとに、幼児の実態に応じた教材を考え、作成する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	個に応じた教材② 指導上の配慮事項・環境整備 [佐藤・小林]	障がいのある幼児の実態に応じた教材を発表し、それぞれの良い点・改善点について議論する。障がいのある幼児の指導における配慮事項や適切な環境の整備について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	インクルーシブな学習活動① [佐藤・小林]	障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための表現活動（音楽、身体表現、造形等）を計画する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	インクルーシブな学習活動② [佐藤・小林]	障がいのある幼児と障がいのない幼児が共に学ぶための表現活動（音楽、身体表現、造形等）を発表し、それぞれの良い点・改善点について議論する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	家庭・関係機関との連携 小学校とのつながり [佐藤・小林]	家庭・関係機関との連携の重要性や、小学部または小学校教育との接続にあたっての留意事項について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ [小林・佐藤]	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	パソコン実務演習		配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。具体的には、子どもや家庭を対象とした情報モラル教育を題材として、一貫した資料作成・アンケート調査・データ集計・プレゼンテーション資料の作成を行う。実務で求められる業務資料作成に必要な文書作成ソフトの技能を学習する。また、表計算ソフトを用いた集計方法とグラフ作成を理解し、データ集計の基礎を身に着ける。最後に、プレゼンテーションソフトを用いた表現方法と動画作成技法を学ぶ。			
授業の到達目標	1. 情報モラルを把握していること 2. 実務で求められる文書作成ソフトの操作ができること 3. 独自性を持った資料作成を行うための創意工夫ができること			
履修条件	なし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価は資料作成演習（アンケート用紙作成）30%、データ集計演習（アンケート結果集計）30%、プレゼンテーション演習（説明スライド作成とプレゼンテーション実施）40%とする。	
テキスト	なし、適宜資料を配布する			
参考書	なし			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	ES2120			
ディプロマポリシーとの関係	「専門的学識」「問題発見・解決力」			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算・プレゼンテーションについての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業内容を説明と、パソコンの基本設定を確認する	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	30
2	情報モラルの理解	子どもの情報モラルに関する現状を理解する。統計資料や、子ども・保護者向け情報モラル講習の内容を踏まえて、課題にも触れる。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
3	情報モラルの指導	第2回で学習する情報モラル教育の具体例として、タイムマネジメントとリスクマネジメントを理解する。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
4	著作権・肖像権	教材や資料作成で注意すべき、著作権や肖像権について学ぶ。特に、最近では園の活動の様子をホームページ公開する次回以降の資料作成で必要な対策を理解する。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
5	資料作成演習（1）	情報モラルの現状を保護者調査するためのアンケート用紙を想定し、フォント・インデント・挿入・PDF等の機能理解を行い、文書作成演習を行う。（学習機能：オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、ページ区切り、段組みなど）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
6	資料作成演習（2）	第5回の続き（学習機能：表作成、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、PDF作成など）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
7	資料作成演習（3）	完成したアンケート用紙の講評と、改善点の確認及び修正を行う。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
8	データ集計演習（1）	第7回までに作成したアンケート用紙を用いたアンケートの模擬実施、および表計算ソフトでのデータ集計を行う。（学習機能：テーブル作成・管理・スタイル・レコード抽出並び替えなど）また、などクラウドサービスを用いたWEBアンケートを紹介する。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	データ集計演習（２）	第８回の続き（学習機能：関数・条件付き書式・グラフ作成など）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
10	プレゼンテーション演習（１）	完成した集計結果を用いて、子どもや保護者に対する情報モラル教育の指導内容を検討する。指導内容は、次回以降作成するプレゼンテーションスライドの基となる。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
11	プレゼンテーション演習（２）	アンケート子どもや保護者向けを想定したプレゼンテーション用スライド作成演習を行う。（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
12	プレゼンテーション演習（３）	第１１回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
13	プレゼンテーション演習（４）	第１２回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
14	プレゼンテーション演習（５）	作成したプレゼンテーションを用いた発表を行う	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60
15	振り返り	これまでの学習内容を振り返り、総括する。	実施個所について、再度実施し、復習する。☒	60